平成24年度　研修報告書　第39号

協働教育推進へのアプローチ

～ 各市町の実践から見えたもの ～

イラスト　蔵王町教育委員会生涯学習課　協働教育コーディネーター　菊池里依子

【大河原地区社会教育主事研究協議会】

発　刊　に　あ　た　っ　て

あの忌まわしい東日本大震災から２年が経過し，宮城県をはじめ大河原管内においても復旧・復興に向けて日夜取り組んでいるところです。しかしながら沿岸部では，極めて甚大な被害を受けたため，復旧・復興の道筋さえ見えてこない状況にもあります。また，原発事故による放射能漏れに伴う汚染についても，福島県及び県境を中心に広がりを見せ今なお除染対策等大きな社会問題となっています。

一方，この震災をとおして，改めて人と人とのつながり「絆」の大切さや地域コミュニティの大切さを誰もが再認識することができました。そのような状況の中，社会教育の分野では子供たちの健全な育成と地域の活性化を図るため「将来のよりよい発展に向け，家庭・地域・学校がそれぞれの役割を認識し，協働して子供を育てる仕組みづくりを行い，家庭・地域の教育力の向上を図り，地域全体で子供を育てる体制の整備を図る」また，「東日本大震災による被災地の自律的な復興に向けて，協働教育の推進を通じたコミュニケーションの活性化や地域の課題解決の取組を支援し，地域コミュニティの再生を図る」ことを推進しています。

さて，大河原地区社会教育主事研究協議会では，目まぐるしく変化する現代社会において，社会教育主事として，各市町において社会教育の推進を図るうえで，課題となっていることをさぐり，その解決策を見いだしていく活動を行っています。今年度の研修テーマは「協働教育推進へのアプローチ～各市町の実践から見えたもの～」です。そして，各市町で取り組んでいる協働教育プラットフォーム事業「家庭教育支援」「地域活動支援」「学校教育支援」をはじめ，「協働教育」に焦点を絞り研修を進めてきました。その内容は，①「学社連携」，「学社融合」そして「協働教育」についての定義や概念の整理，②各市町の協働教育事業の取組や課題等の把握，③名取市教育委員会の家庭教育支援についての先進地研修視察，④協働教育事業推進のための課題の整理及び今後の事業推進策についての座談会，の４つの視点からテーマに迫り，報告書をまとめ上げました。

「協働教育」とは，家庭・地域と学校が協働して子供たちの学びの支援と地域コミュニケーションの活性化を実践する教育活動です。地域と学校をつなぐ仕組みをつくって，両者の良好な関係を広げることにより学校教育と社会教育の一層の充実を図る一つの手法であります。このことは，将来を託す子供たちのために，私たち大人がみんなの力を結集して，輝かしい未来を切り開いて行くための原動力になるのではないでしょうか。

最後になりますが，この研修報告書が一人でも多くの家庭教育・学校教育・社会教育等関係者の方々に協働教育推進のための一助になるとともに何らかのお役に立てれば幸です。また，報告書を発行するにあたり，１年間ご指導いただきました大河原教育事務所の皆様はじめ，先進地研修視察や座談会にご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げますとともに，本年度研修に取り組まれました各市町等の研修委員のご努力に対し，心から敬意を表し発刊のことばといたします。

平成２５年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会

会　長　白石市社会教育主事　小室　徹彦

発　刊　を　祝　し　て

宮城県大河原教育事務所　所長　桂島　晃

管内の社会教育の振興と充実・発展にご尽力されている，大河原地区社会教育主事研究協議会の皆様には，深く敬意と感謝を申し上げます。また，貴協会の皆様が，研修事業の一環として取り組まれた研修報告書第３９号「協働教育推進へのアプローチ～各市町の実践から見えたもの～」を発刊されましたことに心からお祝い申し上げます。

さて，宮城県では，教育振興基本計画において，「学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化を図り，宮城の豊かな教育資源を生かしながら，社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる」ことを目標の一つに掲げ，平成２３年度から「協働教育総合推進事業」を推進しております。その柱となる「協働教育プラットフォーム事業」につきまして，今年度からは，管内全市町にて受託していただき事業を展開していただいております。これもひとえに，各市町教育委員会及び貴協議会の皆様のご理解とご協力の賜と心から感謝申し上げます。

各市町等において協働教育を推進していくには，学校支援ボランティア，読み聞かせボランティア，子育てサポーター，子ども会育成会，ＰＴＡ，婦人団体等々の地域住民の参画が不可欠であり，一朝一夕に事業を充実させることは大変難しいことと思います。しかし，本報告書を拝見しますと，各市町の特色を生かした事業，地域住民や各種社会教育関連団体との連携を図った事業など，県内においても先進的な実践がまとめられており，大変感銘を受けました。このような実践が行われた背景には，貴協議会において，昭和４８年以来，毎年毎年その時代に必要とされている社会教育に関する課題をテーマに掲げ，その解決を図るとともに，地域住民の生涯にわたる学習意識を高めてきた実績があるからです。何よりも，皆様の情熱や努力が礎となっているからではないでしょうか。また，今年度，皆様が研鑽を積まれた協働教育をはじめ，関連事業の推進の中で，今まで以上に行政，学校，家庭そして地域住民の共通理解・共通行動を図っていくことにより，子供を取り巻く教育環境の向上はもちろんのこと，地域全体の教育力もより高まり，ひいては地域コミュニティーの活性化にもつながるものと思います。

本報告書は，貴協議会研修委員の方々はもちろんのこと，協働教育事業に関わられた社会教育行政職員，そして管内各市町の数え切れないボランティア（地域住民）の方々の集大成であり，管外市町村においても，今後の協働教育事業推進の指針となる貴重な資料であると確信しております。

結びに，本報告書の発刊にあたり，これまでの研修委員の皆様のご努力と，貴協議会及び各市町教育委員会の皆様のご支援に対しまして，心から感謝を申し上げますとともに，大河原地区の生涯学習の振興と貴協議会の一層の発展を祈念し，お祝いのことばといたします。

目　　次

発刊にあたって　……　大河原地区社会教育主事研究協議会　会長　小室徹彦

発刊を祝して　……　宮城県大河原教育事務所　所長　桂島　晃

◇　はじめに　……　1

◇　研修テーマと経過　……　3

◇　学社連携・学社融合・協働教育とは　……　5

◇　各市町の取組（現状・事業紹介・考察等）
　宮城県協働教育推進総合事業の概略　……　7
　白　石　市　……　8
　角　田　市　……　12
　蔵　王　町　……　16
　七　ヶ　宿　町　……　20
　大　河　原　町　……　24
　村　田　町　……　28
　柴　田　町　……　32
　川　崎　町　……　36
　丸　森　町　……　40
　仙南地域広域行政事務組合　……　44
　資　料（宮城県協働教育プラットフォーム事業）……　48

◇　先進地研修視察報告　……　53

◇　研修委員による座談会　……　67

◇　まとめ　……　77

◇　おわりに　……　78

はじめに

本年度，最近の大きな課題であり，我々社会教育主事にとっては喫緊の課題である「協働教育」を研修委員全員一致で研修テーマにいたしました。

今から６年前の平成１８年１２月１５日，教育基本法が改正され，第１３条に「協働教育」の推進を図るべく，学校，家庭及び地域住民等の相互の連携協力が謳われ，家庭・地域・学校の三者の役割と責任が明文化されました。

これまで，家庭教育講座や子育てサポーター養成講座など各市町等において様々な事業を実施してきましたが，主として家庭における親子の子育てをサポートするという視点からの事業で，地域活動支援という視点はあまり重要視されていなかったように思われます。

文部科学省は，平成１６年度から「家庭教育支援総合推進事業」を行い，『中・高校生と幼児等との交流事業』等の実施や地域家庭教育推進協議会の設立を促し，平成２０年度から「家庭教育支援基盤形成事業」を行い，『子育て親育ち講座』等の実施や家庭教育支援チームの設立を図っています。

宮城県は，平成１７年度から「みやぎらしい協働教育推進事業」を立ち上げ，①協働教育推進事業，②コラボスクール推進事業，③起業教育推進事業の３つの事業を実施してきました。更に，みやぎらしい協働教育の一モデルとして，平成２０年度から３年間，国委託事業として「学校支援地域本部事業」にも取り組みました。その後，これまでの事業の成果・課題を踏まえ，平成２３年度から「協働教育推進総合事業」を新たに展開しています。子育て支援を通して，家庭・地域・学校の絆が強まり，地域活動の充実・発展につながり，そのことが求められている協働教育のすがたになることを目指しています。

宮城県は，その「協働教育推進総合事業」の中で，家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりを推進して，地域の教育力の向上や活性化を図り，地域全体で子どもを育てる体制の整備を図ることを目的として，①協働教育プラットフォーム事業（県委託事業），②協働教育基盤形成事業，③教育応援団事業，④協働教育普及・振興事業の主に４つの事業を展開しています。その中で最も重要視されているものが，協働教育プラットフォーム事業であります。

大河原管内における協働教育プラットフォーム事業の実践は，平成２３年度から角田市，大河原町，村田町，柴田町，川崎町，平成２４年度から白石市，蔵王町，七ヶ宿町，丸森町の２市７町すべてで実施されています。

地域全体で子どもを育てるため，家庭・地域・学校がそれぞれの役割を認識することが必要不可欠と言われております。また，核家族化や少子化など社会構造が大きく変化している現在，家庭・地域・学校のこれまでの対応では課題解決は難しく，地域社会の現状を踏まえながら，家庭・地域・学校それぞれの教育力を高め，再構築するということが肝要になっています。

我々，研修委員会では，協働教育プラットフォーム事業の３つの柱である「家庭教育支援」「地域活動支援」「学校教育支援」の３つに分けて実践事例事業を紹介し，各市町等の現状・課題を把握した上で，これから求められる協働教育のすがたを模索しました。スタートして間もない協働教育ですが，この研修報告書が関係各位の皆様の一助になれば幸いです。今後，我々も実践に活かせるように努めてまいりたいと思います。

平成２５年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修副委員長　　大河原町社会教育主事　小野　宏

研修テーマと経過

研修テーマと経過について

１　研修テーマ

協働教育推進へのアプローチ　～各市町の実践から見えたもの～

２　研修テーマ設定の理由

（１）研修の目的

大河原教育事務所管内における協働教育について，その現状や課題を把握し，よりよい事業推進の方策を探る。

（２）研修テーマ設定の理由と研修の方向性

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では，例年，管内において推進すべき事業や調査を要すると判断した内容をテーマに掲げ研修を行っている。

今年度の研修テーマ設定にあたっては，平成２３年度から実施された宮城県協働教育総合推進事業の中にある協働教育プラットフォーム事業について，今年度から管内の全市町が受託し取り組みをはじめたことから，「協働教育」に焦点を絞り，研修を進めることとした。そして「協働教育推進へのアプローチ～各市町の実践から見えたもの～」をテーマに掲げ，つぎの４つの視点からテーマに迫ることとした。

視点１・・・「学社連携」，「学社融合」，そして現在，県内において推進が図られている「協働教育」についての定義・概念を整理する。

視点２・・・各市町の協働教育事業の取組や課題を把握する。

視点３・・・協働教育の分野において，先進的な取組を行っている市町村にて先進地研修視察を行い研鑽を深める。

視点４・・・座談会を開催し，各市町の協働教育事業の推進状況について情報を交換し，課題の整理及び今後の事業推進策を探る。

（３）研修計画と内容

月　日 （曜日）	会　議　名	会　場	内　容
４月27日 （金）	社会教育主事研究協議会総会	合同庁舎	平成２３年度事業，会計決算報告， 平成２４年度事業，予算・役員改選等
５月９日 （水）	第１回研修委員会 第１回社会教育主事研究協議会	大河原町	研修委員会役員の選出，研修内容の検討， 年間の研修計画等について 話題提供（川崎町）
６月８日 （金）	第２回研修委員会 第２回社会教育主事研究協議会	合同庁舎	研修テーマ，内容，方法等の決定， 先進地視察，座談会の内容について
７月13日 （金）	第３回研修委員会 第３回社会教育主事研究協議会	角田市	研修視察，研修の進め方について 話題提供（大河原町）
９月５日 （水）	第４回研修委員会	合同庁舎	先進地視察について 研修内容について
９月26日 （水）	社会教育主事研究協議会 先進地研修視察	名取市	名取市の子育てサロンぽっぽはうす， 生涯学習課家庭教育事業について
10月10日 （水）	第５回研修委員会 第４回社会教育主事研究協議会	七ヶ宿町	視察研修反省，研修内容の検討について 話題提供（角田市）
11月14日 （水）	第６回研修委員会 研修委員による「座談会」	合同庁舎	研修課題の追求 座談会「協働教育推進へのアプローチ」
12月６日 （木）	第７回研修委員会	合同庁舎	座談会のまとめ 研修報告書の作成と分担
１月25日 （金）	第８回研修委員会 第５回社会教育主事研究協議会	柴田町	研修のまとめ 話題提供（七ヶ宿町）
２月７日 （木）	第９回研修委員会	合同庁舎	研修のまとめ 研修報告書の原稿作成等
３月１日 （金）	第10回研修委員会 第６回社会教育主事研究協議会	蔵王町	研修報告書の最終校正，まとめと反省 話題提供（柴田町）

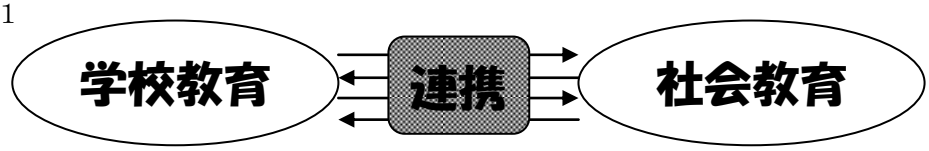
学社連携・学社融合・協働教育とは

学社連携・学社融合・協働教育とは

学社連携・学社融合・協働教育について，様々な定義や概念が示されているが，本協議会では，次のように捉えることとする。

１　学社連携

「学社連携」とは，学校教育と社会教育がそれぞれ独自の教育機能や主体性を保持しながら，相互補完や相互協力関係を成立させ，両者が共有する領域における教育・学習活動を効率的に行うこと。※１



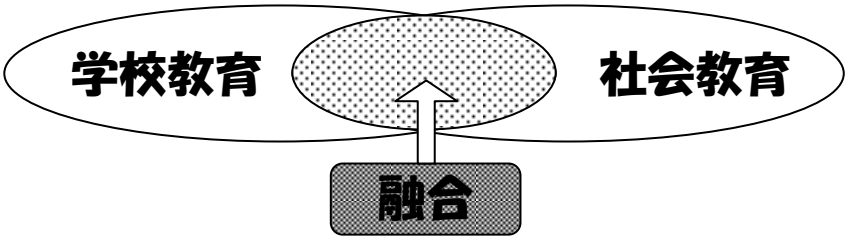
実施主体が明確で，相互補完・資源活用しているイメージ

豆知識①「学社連携」はいつスタートしたの？

学社連携の端緒は，１９７１年（昭和４６年）の社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」においてみられる。この画期的な答申は，「家庭，学校及び社会で行われる教育が，それぞれの独自の役割を発揮しつつ全体として調和を保ってすすめることが極めて重要である」として家庭教育・学校教育・社会教育の有機的な統合の必要性を提唱した。さらに，１９７４年（昭和４９年）の社会教育審議会建議「在学青少年に対する社会教育のあり方について」では，もう一歩踏み込んで，家庭教育・学校教育・社会教育の連携は，「例えば，家庭教育で養われた心情や態度を社会教育活動を通じて社会的に深めたり，学校で学んだ原理的な事柄を社会教育の場で実践し，また，社会教育で体験した実践的な事柄を学校教育を通じて更に体系的に深めるというようなことであり，この様な三者の連携によってそれぞれの教育効果を一層高めることができる。」とし，三者の連携に言及している。※２

２　学社融合

「学社融合」とは，学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提としたうえで，そこから一歩進んで学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら，一体となって教育・学習活動を行うもの。※３



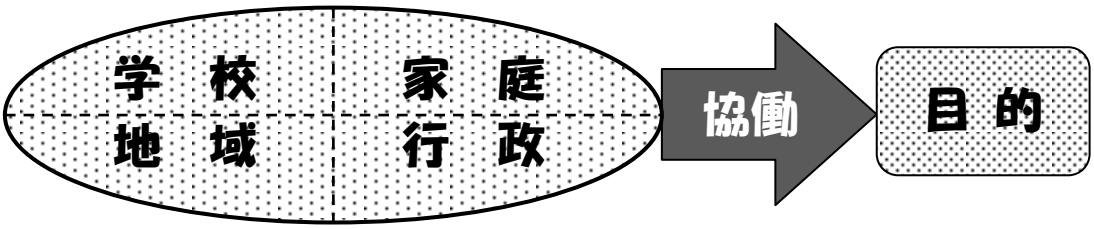
双方の立場が対等で，重なった部分を充実していくイメージ

豆知識②　「学社融合」はいつスタートしたの？

学社融合が初めて公表されたのは，１９９５年（平成７年）の国立青年の家・少年の家の在り方に関する調査研究協力者会議報告書「国立青年の家・少年の家の改善について－より魅力ある施設に生まれ変わるために－」においてである。この報告書で，「生涯学習社会の中で，青少年教育施設の持つ教育力，可能性をフルに発揮し，学校教育と社会教育が融合した形で青少年の育成を図る」とした上で，青少年施設は学社融合の実践の場として活用することを目標とし，「これからの生涯学習社会においては，学校と学校外の教育がそれぞれの役割を分担した上で，連携を図っていくというだけでなく，それ以上に，相互がオーバーラップしつつ，融合した形で行われていく」ものが学社融合の理念であるとした。さらに，１９９６年（平成８年）の生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」では，学社融合を「学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提とした上で，そこから一歩進んで，学習の場や活動などの両者の要素を部分的に重ね合わせながら，一体となって子供たちの教育に取り組んでいこうという考え方」であると提言した。そして学社融合が「学社連携の最も進んだ形態」とし，学社連携をさらに発展した形であるという概念の位置づけをおこなった。※４

３　協働教育

「協働教育」とは，家庭・地域と学校が協働して実施する教育活動。地域と学校をつなぐ仕組みをつくって，両者の良好な関係を広げることにより学校教育と社会教育の一層の充実を図る一つの手法。※５



みんなが一緒になって取り組んでいくイメージ

豆知識③　「協働」の語源は・定義は？

「協働」という言葉は，アメリカ合衆国のインディアナ大学の政治学教授であるヴィンセント・オスロム（Vincent Ostrom）が，１９９７年に著書「Comparing Urban Service Delivery System」で，自治体職員と地域住民が協力し合って行政サービスを提供することを表す「coproduction」という用語を用いたことで生まれた。（英語で「co」は「共同の～，共通の～」という意味であり，これに「production」・「生産，産出，成果」を結びつけた造語である。）日本では，１９９０年に荒木昭次郎（熊本県立大学教授）が『参加と協働：新しい市民＝行政関係の創造』（ぎょうせい）の中で「協働」と和訳し紹介したのが最初とされる。※６・７

したがって「協働」という言葉は，日本において古くから用いられてきたものではなく，近年になって造られた造語であるため，確定した定義があるわけではなく，学識者や自治体等により様々な定義がなされているのが現状である。なお，宮城県教育庁生涯学習課の「協働」の定義は，下記のとおりである。※５

「協働」とは

一歩進んだ連携・協力のカタチ。複数の主体者（家庭・地域・学校・行政）が目的（子どもの健全育成に向けて）を共有し，各々の特性・能力を活かしながら，お互いを尊重しつつ，対等な立場で協力し合い一緒に活動すること。

＜引用文献・参考文献等＞

※１　青森県教育庁生涯学習課ホームページ

※２　佐々木正治 ほか 社会教育における連携概念の一考察 ー高等教育機関との連携を中心にー広島大学教育学紀要第一部（教育学） 第 46 号 1997 年

※３　文部省 地域における生涯学習機会の充実方策について 1996 年

※４　鳥谷部絵美 弘前大学大学院教育学研究科 修士論文中学校から地域社会教育へのアプローチの現状と課題ー教員の役割と課題ー 2009 年

※５　宮城県教育庁生涯学習課ホームページ

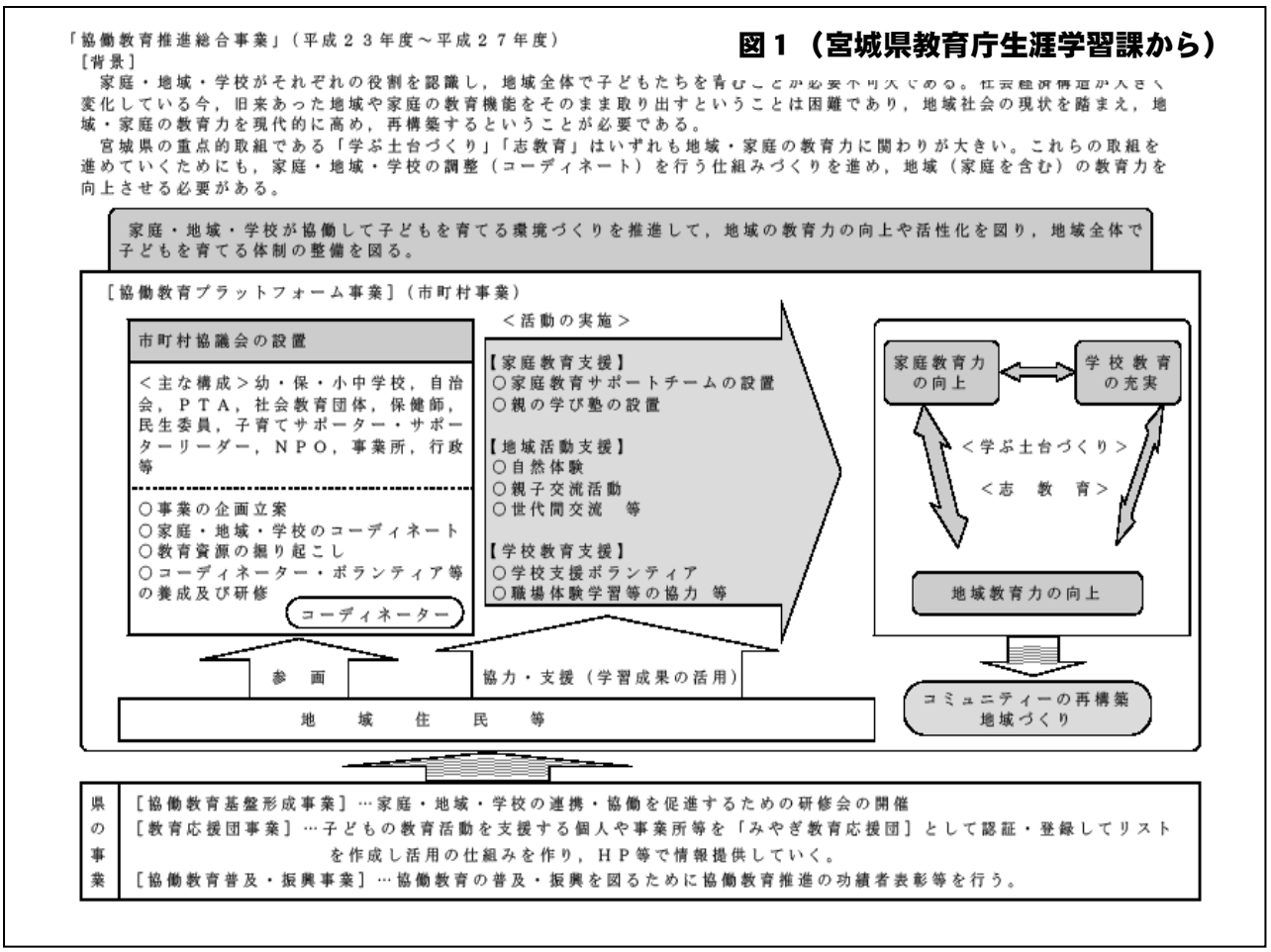
※６　ウィキペディアホームページ

※７　石井秀一 自治体総合政策研究所 政策研究レポート「『協働』とは何か」の再整理（その１）ー今や意味不明な言葉となった『協働』は不要かー 2010 年

宮城県協働教育推進総合事業の概略

宮城県では，平成２３年度から「協働教育推進総合事業」を展開している（下記図１）。その主たる事業は，①協働教育プラットフォーム事業，②協働教育基盤形成事業，③教育応援団事業，④協働教育普及・振興事業である。なお，①協働教育プラットフォーム事業に関して，宮城県からＰ４８～５２の資料が配布されている。

図１（宮城県教育庁生涯学習課から）



本章では，管内全市町が受託している①協働教育プラットフォーム事業を中心に，その取組や課題について把握する。なお，協働教育プラットフォーム事業は，家庭教育支援，地域活動支援，学校教育支援の３つの支援が柱となった事業であり，これを踏まえ各市町では事業を展開している。

豆知識④　宮城県では「協働教育」はいつからスタートしたの？

平成１７年度から，協働教育推進のきっかけづくりを図るため「みやぎらしい協働教育推進事業」を立ち上げ，「協働教育推進事業」「コラボスクール推進事業」「起業教育推進事業」の３つの内容で事業を展開してきました。その際，宮城県が推進する協働教育の特徴として，「県内各市町村の政策や重点施策などの公の方針のもと，地域と学校をつなぐ仕組み・組織をつくり，家庭・地域と学校の協働の取組を行政がしっかりと支えていくこと」を「みやぎらしい」と定義付けました。さらに，みやぎらしい協働教育推進の一モデルとして，平成２０年度から３年間，国の委託事業として「学校支援地域本部事業」に取り組みました（平成２２年度１４市町）。これまでは，「学校教育」を社会教育や地域が支援する事業を実施してきました。しかし，子どもの育成は学校教育だけで成り立つものではなく，家庭教育や地域の中での教育も必要とします。よって，これまでの事業の成果・課題から，今後も安定的・継続的に協働教育を推進するために新たな枠組みで事業を実施していく必要性が高まり，平成２３年度から「協働教育推進総合事業」を展開しています。事業は，「みやぎらしい協働教育」の趣旨を引継ぎ，そして，「協働教育」が県内全域に普及・定着しつつあることから，「みやぎらしい」を「みやぎの」としました。（宮城県教育庁生涯学習課ホームページから）

各市町の取組

白石市における協働教育の取組

1　現状

協働教育をとりまく現状について

子供たちの健やかな成長を願い，家庭や地域との連携を図りながら学校教育及び社会教育の両面から様々な活動を展開しているが，以前にも増して，幼児期の「子育て」の重要性が叫ばれている。また，昨今の社会情勢を見てみると，少年の犯罪やいじめ，子供への虐待，有害情報等の氾濫が大きな社会問題となっている。

当市の現状においても，不登校や非行などの生徒指導上の諸問題は依然としてあり，子供たちの正義感・倫理観や思いやりなどの心を育む「心の教育」をより一層推進することが必要となっている。

家庭に目を向けて見ると，昔のような三世代同居で，兄弟姉妹がお互いに子守りをするような大世帯は少なく，どの家庭にも少子化・核家族化・共働き・都市化の波が押し寄せている。「子供は親の背中を見て育つ」環境にはほど遠く，基本的生活習慣やしつけについての苦労や悩みを抱えたり，地域とのコミュニケーション不足から「子育て」に大きなストレスを感じたりしている。

このような現状を踏まえて，協働教育プラットフォーム事業を展開することにより，家庭・地域・学校が相互に連携・協働し，家庭・地域の教育力の向上を図り，地域全体で子供を育てる体制の整備を図る。さらに，生涯学習社会に向けた多様な学び場やレクリエーションの場づくりを公民館等の社会教育施設や集会所をはじめ地域で推進する。また，学びをとおした地域コミュニティーづくりをはじめ，家庭教育・地域活動・学校教育の支援事業を展開し協働教育の推進を図っている。

2　事業紹介

（1）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
子育て相談	子育てをしていての悩みや不安など，ひとりで悩まず気軽に相談できます。話すことで解決の糸口が見つかったり，心が軽くなることもあります。	会場：ふれあいプラザ内地域子育て支援センター
あいあいらんど	地域の公民館に行って，異年齢の友達と遊んだり，手遊びや，ふれあい遊び，紙芝居を見るなど，親子で楽しい時間を過ごせます。	会場：大平公民館（第４水曜日）
ほっぷんちょ	親子ふれあい相談員が中心となり，活動を進めます。ふれあい遊び，手作りおもちゃ製作，子育て情報交換や友達づくりの場として活動します。	会場：中央公民館（第３水曜日）
親子リトミック講座	親子で歌とピアノに合わせて楽しく歌ったり踊ったりしながら，自主性を尊重し，子供たちの個性を伸ばす講座として開催しています。	会場：中央公民館（第１・３木曜日）
育児講座	新米ママのための講座です。ベビーマッサージ，ベビースリング，造型あそび，親子サッカー教室などがあります。	会場：ふれあいプラザ，大平公民館

クリスマス子育てふれあいコンサート	あきらちゃんラーメンちゃんによるクリスマスにちなんだ，あそびうたあり，ダンスありの親子で参加できるコンサートです。う～めん体操やラーメン体操もあります。	会場：中央公民館 12 月 2 日（日）

【親子リトミック講座】　【クリスマス子育てふれあいコンサート】　【ほっぷんちょ】

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
わんぱく教室	体験学習などを通じて，青少年の健全育成を図るとともに，個々の創造性や集団での協調性，自主性を養うとともに生活力を身につける。 ・ジュニア・リーダーと遊ぼう ・わんぱく大冒険キャンプ ・わんぱくクッキング＆バーベキュー ・わんぱくピクニック ・わんぱくもちつき大会	市内小学５・６年生対象 参加者 22 名 中央公民館 金峰自然の家 蔵王ハートランド みちのく湖畔公園 中央公民館
第 35 回 こどもまつり	野外活動･レクレーションを通して青少年の豊かな人間形成と相互の親睦交流を図る。シャボン玉，ペットボトルボウリング，人形劇等 13 カ所の遊びコーナーあり。	主催：中央公民館，児童館，子ども会育成会，母親クラブ
ジュニア・リーダー研修及び派遣事業	Ｊ・Ｌ対象に，子ども会の指導者としての知識や技術の習得を目指す。各地区の子ども会や児童館等の要望に応じゲームやレクダンス等を通し子供たちを指導する。	会場：中央公民館，野営場，児童館 各地区子ども会
遊びの達人養成講座	様々な感動体験を通じて子供たちや子ども会活動の指導者を養成し子ども会活動の活性化を図る。	主催：中央公民館，子ども会育成会
生涯学習フェスティバル事業	でんじろう直伝！おもしろサイエンスショー，ベガルタ仙台サッカー＆サッカールール教室，心身障害児者フォーラム，漢字文化セミナー等を開催している。	会場：中央公民館，ホワイトキューブ，白石第一小学校他
「家庭の日」 推進事業	地域全体で家庭のもつ役割の重要性を再認識し，青少年の健全育成と非行防止の啓発を図る。毎月第三日曜日を「家庭の日」と定め推進している。	主催：生涯学習課，青少年のための市民会議
子ども日本舞踊講座	子供たちに個性豊かな文化のかおり高いまちづくりを継承するため，芸術・文化活動や伝統芸能の伝承と普及活動を積極的に推進する。	主催：古典芸能伝承の館，碧水園

【わんぱく大冒険キャンプ】

【第３５回こどもまつり】

【おもしろサイエンスショー】

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
放課後子ども教室	放課後や週末等に子供たちが安全・安心な活動拠点を設け,学習支援や地域社会の中で心豊かで健やかに育まれるための環境づくりを推進する。 ・絵本や紙芝居等の読み聞かせ ・七夕飾りづくり ・宿題へのとりくみ ・ニュースポーツ体験	会場：越河小学校 斎川小学校 福岡公民館
巡回小劇場	青少年にかおり高い芸術を身近に鑑賞する機会を提供し，豊かな情操を養う。 ・東京金管五重奏団演奏会	会場：中央公民館 参加者：379 名
協働教育プラットフォーム事業 （学校教育支援）	地域全体で子供を育てていく体制の整備を図るため家庭教育・地域活動・学校教育の支援を行う。特に学校支援ボランティアの活動や職場体験受け入れ等を増やす。 ・学習アシストタイプ（学級担任の補助） ピアノ伴奏，毛筆指導補助，水泳補助，部活動支援 ・ゲストティーチャータイプ（中心となって指導する） 和太鼓指導，郷土史学習，民俗芸能指導，昔遊び指導 ・学習環境サポートタイプ（学校の指示による活動） 図書整理，実験器具整理，卒業証書記名，交通指導 ・施設メンテナンスタイプ（環境美化等の活動） 植木選定，花壇整備，遊具修繕，除雪作業，除草作業	重点校 4 校 （白石中学校区） 市内 16 校

【放課後子ども教室】

【和太鼓指導】

【サツマイモの苗植え指導】

３　考察

「協働教育」の活動をとおして感じることは，地域の方々にとって，未来を託すかけがえのない子供たちを健やかに育む手助けができることであり，自分自身の生活を充実させる活動でもある。地域の一員として，自分の存在を見いだし，自己実現を果たしながら，住みよいまちづくりの取り組みでもある。

一方，この活動により学校や教職員にとっては，通常の授業や活動を越えた取り組みであり，地域に根ざした活動でもある。さらに,地域とのコミュニティーの形成にも役立ち，地域住民・学校支援ボランティアとのよりよい協働関係の構築につながるものでもある。

そういった意味で，変化の激しい社会の中で，自立し，たくましく生き抜いていく子供たちを育てていくには，社会全体・地域全体で取り組む必要がある。そのためにも，学校の教育活動を理解し，教職員の取り組みを応援し，支えてくれる地域の人々の協力が必要不可欠である。そういった人材を育成し，広く子供たちの成長を見守り，支えてくれる人たちを一人でも多く増やしていくことが今後の課題である。

「人は多くの人と関わりを持ち，日々成長していくものである」

●家庭・学校・地域の連携による教育力の強化に向けて

○地域の中での交流活動・体験学習・ボランティア活動・地域諸行事等への参加の機会を拡充し，活力に満ちた地域社会づくりを推進する。

○公民館活動と学校教育活動との連携強化により，地域コミュニティーの活性化を図る。

○地域の人材（学校支援ボランティア）や施設等，地域の資源を生かした体験学習の推進を図る。

○地域の支援のもとに放課後子ども教室推進事業の拡充を図る。

○家庭･学校･地域の密接な連携により，青少年育成活動と青少年の社会参加を推進するとともに，ジュニア・リーダーの育成と活用を図り，地域ぐるみで子ども会の活性化と世代間交流活動を推進する。

●家庭教育支援の推進に向けて

○「家庭の日」や「ノーテレビ・ノーゲームデー」の浸透を図りながら，家族団らんの工夫や子供の家事分担等を基本にした教育の推進を図る。

○「はやね・はやおき・あさごはん」等の基本的な生活習慣の取り組みの推進を図る。

○親の「学び」と「育ち」のための支援の充実を図る。

○親子ふれあい交流事業の拡充と子育ての悩みや不安についての相談や学習の場の充実を図る。

○正しい倫理観や思いやりの心などの豊かな人間性を育む家庭教育への積極的な支援を行う。

【ベガルタ仙台サッカー教室】

【ジュニア・リーダー初級研修会】

【わんぱくもちつき大会】

角田市における協働教育の取組

1　現状

全国的な社会的規範意識低下や家庭・地域の教育力の低下が叫ばれるようになり，角田市においても昭和６２年度から家庭教育相談事業を行ってきたが，市内においても核家族が年々増加し，家庭の教育力向上と，それを地域住民が支援する仕組みづくりが必要となり，文部科学省の委託事業である「家庭教育支援総合推進事業」に平成１７年度から取り組み，子育てサポーターの養成を行うとともに，ライフステージに応じた課題別子育て講座を市内の各種施設で実施してきた。

平成２０年度からは「家庭教育支援基盤形成事業」において相談体制や情報提供の充実を図るため，家庭教育支援チームを設立し，現在も引き続き活動中である。

また，核家族の増加等の要因により，子どもたちの活動拠点が減少してきていることから平成１６年度から「子どもの居場所づくり推進事業（県委託）」に取り組んだ。地域の大人が指導者となり，学校等を活用し放課後や週末に子どもたちが安全に安心してスポーツや文化活動などの様々な活動ができるよう支援してきた。県の委託期間終了後も「かくだ子どもの居場所づくり実行委員会」が当事業を継続している。

平成１７～１８年度には宮城県が協働教育を推進するために立ち上げた委託事業のうち「コラボスクール推進事業」にも取り組み，通学合宿や花いっぱい運動を実施したほか，現在も継続されている農業体験推進事業等を行い，多くの地域住民が子どもたちの教育に携わるきっかけとなった。

他にも，平成２０年度に実施した文科省の委託事業である「『学びあい支え合い』地域活性化推進事業」では，角田市地域婦人会のメンバーが講師となり，ＥＭ菌を使った環境保全活動の一環として，市内の各小学校で環境浄化学習活動を実施。現在も数校で継続している。

角田市では以前より子ども会育成会の活動が活発で，地区毎に学校と連携しながらインリーダー研修会を実施するほか，毎年 800 名程度の子どもたちが参加する「子どもフェスティバル」を実施し，子どもたちの地域活動を支援してきている。

ここ数年では，各地区の地区振興協議会が当地区の小学校と連携して，あいさつ運動や農業体験等を行うケースも見られるようになった。

子どもの居場所づくり（北郷小）

子どもの居場所づくりでの
太鼓指導の様子（西根小）

２　事業紹介

（１）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
家庭教育学級	各地区において，毎回様々内容で楽しく子育てについて学びながら，親同士のコミュニケーション向上を図ることを目的に実施。学級内で子育てサポーターによる相談対応も行う。 他に，角田自治センターでは全市対象の家庭教育学級も実施している。	場所：市内各自治センター， ファミリーサポートセンター 回数：各１０回程度 対象：地区の幼児とその保護者
子育て・親育ち講座	就学時発達検査や保護者会等の保護者が集まる機会を利用し，子育てについての学習の場を提供している。 外部講師による講演を主体に実施している。	場所：市内の一部保育所，児童館， 小学校 回数：各１～２回 対象：児童・生徒の保護者 （児童と一緒の場合も有り）

家庭教育学級（桜自治センター）

子育て・親育ち講座（横倉児童館）

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
インリーダー研修会	子ども会活動が盛んになる夏休みに向けて，各地区の子ども会育成会が小学校と連携して，子ども会活動のリーダーを育成するために実施。	場所：小学校等 （地区によりそれぞれ） 回数：各地区１回 対象：当該地区小学生高学年
子どもフェスティバル	子ども会育成会が主体となって，モデル子ども会による出店のほか，総合型地域スポーツクラブ「スポコムかくだ」やＡＬＴ等様々な団体等にも協力してもらい『子どものまち』をつくりあげる。 （例年約 800 人の参加）	会場：角田市総合体育館 回数：１回（例年２月開催） 対象：市内の小学生

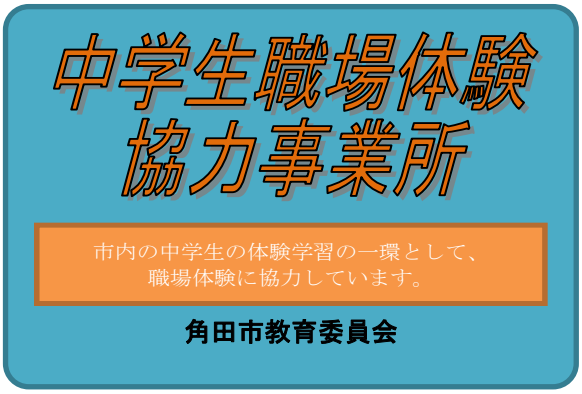
パフとあそぼう会	休日を利用しジュニア・リーダー（パフ・ボランティア・サークル）が各小学校を会場に，異年齢の集団での遊びを教えている。	場所：市内各小学校体育館 回数：各１回 対象：当該小学校児童
角田祭ばやし講習会	郷土芸能の伝承発展と子どもたちの情操を養うために，角田自治センターと祭ばやし保存会が連携して実施している。	場所：角田市市民センター 回数：１０回 対象：角田地区児童生徒

子どもフェスティバル

パフとあそぼう会

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
総合学習支援	農協青年部や地域婦人会など様々な団体が，農業体験やＥＭ菌を使った環境学習などの支援を行っている。	実施校：市内各小学校
登下校の見守り	地域のボランティアの方々が，登下校の時間に街頭に立ち，児童の安全を見守っている。	実施校：角田小学校　他
職場体験	中学生が「仕事」を体験するため，市内の各事業所が協力している。	実施校：市内各中学校



職場体験協力事業所ステッカー

ＥＭ菌を使った環境学習の様子

３　考察

家庭教育支援チームの活動が根付いてきているが，家庭教育学級の開催が主に平日であり，働きながら子育てをする親に対する支援が小学校や保育所等で行う親育ち講座のみとなっている。当講座を未実施の学校等でも実施していくことが，今後重要になってくるものと思われる。

家庭教育学級の継続も，地域のつながりを高めていくために重要である。自分が楽しく子育てについて学んだという経験があれば，その中から自分の子育てが落ち着いた後に，チーム員となって活動してくれる人が出てくれることが期待できる。そのようなサイクルを長いスパンで作っていくことが当面の課題である。

学校支援に関しては，学校と地域団体とのつながりによる支援がメインであり，個人のボランティア登録を行っていない。団体には属していないが何らかの形で学校の力になりたいという人たちが，学校支援にかかわれるシステムをどのように構築するかが課題となっている。

地域活動支援は, インリーダー研修会等遊びを通した学びについて行ってきたが, 子どもたちが将来, 自分が支援する側になるためにも，もっと地域に関心を持つための学びや，地域に貢献できる活動機会の提供等も必要であると思われる。

地域全体で子育てをする重要性に気付き，支援活動を自主的に行ってくれる人たちを増やすことが協働教育を進めていくうえで最も重要であるが，そのためには支援内容は試行錯誤しながらも，支援自体を継続していくことで新たな支援者が現れるものと考える。

子どもフェスティバル（左から，モデル子ども会出店，スポーツ体験コーナー，角田祭ばやし発表）

インリーダー研修会（東根地区）

家庭教育学級「ラッコちゃん広場」

蔵王町における協働教育の取組

１　現状

現代の社会情勢は大きく変化し，子供の健やかな育ちには家庭・地域・学校のそれぞれの役割が必要不可欠とされている。蔵王町においても，核家族化，就業形態の多様化，価値観の多様化による意識の変化により，世代間のつながりや地域での交流が失われ，家庭の教育力低下や孤立化が進む傾向が見受けられる。

この現状を踏まえ，蔵王町では第４次長期総合計画において，学校と家庭及び地域が一体となり，子供の育成に取り組むことを目標とし，平成２０年度から「蔵王町学校支援地域本部事業」において，学校教育活動に対し，地域ぐるみで子供を育てる体制づくりを推進してきた。「蔵王町学校支援地域本部事業」は,「起業教育普及推進事業」（平成１７年度～平成１９年度実施）と「コラボスクール推進事業」「学び合い支え合い」地域活性化推進事業（平成１９年度～平成２０年度実施）を元に，これらの活動を再編・統合し，より効率的・効果的な事業になるよう進められてきたものである。

現在，これまでの学校教育支援に加え，家庭教育及び地域活動への支援を行い，これらを効果的につなぎ協働する仕組みづくりを進めることで，地域・家庭の教育力向上を図るべく「蔵王町協働教育プラットフォーム事業」を展開している。

２　事業紹介

（１）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
家庭教育講座	小学校入学前の子をもつ保護者に対し，家庭教育の大切さに改めて気づいてもらう，という目的で開催。 テーマ：「もうすぐ１年生　お父さん・お母さん　観て・聴いて・支えて…ね」 講師：宮城県大河原教育事務所 社会教育指導員　伊藤　誠　氏	町内の全小学校で開催する「就学時健診」の時に実施をするため，多くの保護者に聴いてもらえる貴重な機会となっている。
親子ふれあい教室	２歳６ヶ月健診の場を活用し，ベビーマッサージ，手遊び，わらべうた等をとおして親子が触れ合える教室を開催。 講師：佐藤　民子　氏	福祉センターを会場に実施し，親と子が触れ合いをとおして学べる場。継続して家庭でできることがメリット。保健福祉課との連携及び町公民館事業との共催。
本に親しむ活動	年齢別におすすめする絵本や子育てに関する書籍を掲載したブックリストを配布。読み聞かせをとおして親子の絆を深める。	町立図書館との連携。
家庭教育コラムの掲載	家庭教育についての具体的事例を配信。	月１回発行している「生涯学習だより」への掲載。

【家庭教育講座】

【親子ふれあい講座】

【本に親しむ活動】

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
ジュニア・リーダー事業	中高校生を対象に，子ども会のリーダーとしての知識や技術の習得を目指す。 ①子どもの理解，ジュニア・リーダーの役割の他，合宿にて安全教育等を研修。 ②広報活動，創作活動，レクリエーション活動，キャンドルセレモニー等を実施予定。 ③町内５つの支部は各地区児童館を拠点に児童厚生員の指導のもと地域活動に参加。	町育成会との連携。 登録者：高校生 28 名/中学生 56 名 ①初級研修会Ⅰ・Ⅱ（蔵王自然の家） 5 月 13 日，6 月 30 日～7 月 1 日 参加者：17 名 ②総合研修会（蔵王自然の家） 3 月 16 日～3 月 17 日 募集人数：15 名 ③地域活動（一部抜粋） クリスマス会（円田地区） スポーツ大会（平沢地区） 子どもの日の集い（永野地区） 豆まき会（宮地区） ふるさとフェスティバル（遠刈田地区）
インリーダー合宿研修会	小学４年生～６年生を対象に子ども会のリーダーとしての知識や技術の習得を目指す。	町育成会との連携。 7 月 31 日～8 月 1 日（蔵王自然の家） 参加者：インリーダー16 名 ジュニア・リーダー17 名
世代間交流事業	革細工教室，陶芸教室，ガラス工芸教室（地区公民館事業）などのものづくりや夕涼み会等（地区公民館・育成会・母親クラブとの共催）を実施し，幅広い世代の参加を呼びかけ交流を深める。	革細工教室（遠刈田地区公民館，10 名） 陶芸教室（ございんホール，6 名） （アトリエまんぷう，20 名） （宮地区公民館，21 名） ガラス工芸教室（円田地区公民館，13 名） （宮地区公民館，30 名）

【ジュニア・リーダー初級研修会】

【ジュニア・リーダー地域活動】

【世代間交流事業（陶芸教室）】

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
本の読み聞かせ	本好きな子供に育ってほしいという願いを込めて実施。読み聞かせをとおして，本との出会い，友だちとの共通体験などが得られる。	全小学校で週１回～月２回程度，母親クラブを中心としたボランティアが活動。 子供たちもボランティアも楽しみにしている。
図書室整備	図書室にある本の修理や新しい本の補強等を行う。	全小学校で月１回程度実施。 修理や補強された本を子供たちが感謝しながら，借りていく様子にボランティアも励まされ，活力になっている。
下校見守り	小学生下校時に，児童が安全に下校できるよう見守る。	宮小学校区で実施。
学習支援活動	①ＥＭ発酵液作り ②昔話語り ③合唱指導 ④地域を知る学習（蔵王を知る） ⑤地域の人の話しを聞く会 ⑥太鼓演奏指導 ⑦畑たがやし 上記①～⑦の指導や補助を行う。	①全小学校で実施。 ②円田小学校で実施。 ③円田小学校で実施。 ④円田小学校で実施。 ⑤遠刈田中学校で実施。 ⑥遠刈田中学校で実施。 ⑦宮幼稚園で実施。 ★支援件数 176 件， ボランティア数述べ 321 名 （12 月末現在）
校外活動支援	①水辺の楽習（環境教育） ②スキー教室 ③登山等 上記①～③の指導や補助を行う。	①永野小学校で実施。 みやぎ教育応援団とのコラボ。 ②遠刈田小学校で実施。 ③宮中学校で実施。
職場体験学習の協力	中学生が町内の事業所等において職場体験を実施するに際し，連絡調整を行う。	円田中学校，遠刈田中学校 ※事前学習「マナー講座」及び「蔵王町の産業と観光」も上記２校で実施。
陸上競技指導	陸上競技大会に向けて，陸上専門講師が指導を行う。	全小学校で計 14 回実施。
協働教育活動支援	地域と学校教育の協働で，地域の特色を生かした教育活動の講師謝礼に対する助成を行う。	

【本の読み聞かせ】

【図書室整備】

【ＥＭ発酵液作り】

【昔話語り】

【合唱指導】

【地域の人の話しを聞く会】

【太鼓演奏指導】

【水辺の楽習】

【職場体験事前学習　マナー講座】

３　考察

（１）家庭教育支援

就学時健診の場を活用して行われた「家庭教育講座」において，多くの保護者が参加し日頃の子育てについて見つめなおすきっかけとなった。今後は，保護者を支援しながら，次世代を担う子供たちを地域全体で育てられるような取り組みを他課との連携により，推進していく必要がある。

具体的には，家庭教育コラム「ございん家のつぶやき」を冊子化し配付することや、「家庭教育サポートチーム（仮称)」の設置に関わる準備などが挙げられる。

（２）地域活動支援

現在，町と他団体及び関係機関との連携により継続開催している事業が多いので，今後はプラットフォームという枠組みの中で，協力体制を強化する必要がある。

また，現在活動している方々に加えて，より多くの保護者に地域活動への積極的な参加を促し，若い世代においても地区や地域を盛り上げる中心的存在になるような人材を発掘し，育成することも課題である。

（３）学校教育支援

子供たちは，学校の授業において，地域の方々と関わることでより深く学ぶことができ，知的好奇心を満たすことができた。また，地域の方々にとって，公民館講座等で得た知識を活かせる場所があることはとても大切であり，自らの学習意欲ややりがい・生きがいにつながっている。学校に対しては，学校独自のボランティアでは対応が難しい支援内容の提供や人材を派遣することができた。

その一方で，活動するボランティアの固定化やボランティア内容と学校のニーズの不一致という課題が残された。今後は，ニーズに合わせた新規ボランティアの発掘が必要になる。

七ヶ宿町における協働教育の取組

１　現状

平成１４年度から完全学校週５日制の導入により，学校では，関心・意欲，思考力，判断力，表現力がこれまで以上に重視されるようになった。そのため，学校外での社会体験や自然体験の必要性が改めて注目されるようになった。

七ヶ宿町では，そんな社会情勢に対応するため，国庫補助の地域活性化モデル事業を推進し，自然体験活動を主としたわんぱく探検スクールや町の教育を考える七ヶ宿町教育推進協議会など自然体験活動や地域・家庭の教育力向上を目的とした事業を実施するようになった。

また，平成１３年度から全町民を対象とした家庭教育講演会を開催し，平成１５年度からは地域教育力講演会（次年度から地域の教育力を考える町民のつどい）として平成２２年度まで実施され，町全体で家庭・地域教育に取り組んできている。

そして，平成２４年度から協働教育プラットフォーム事業を受け，これまで行ってきた事業をもとに地域・家庭・学校が相互に連携して子供を育てる環境づくりを進め，地域・家庭の教育力向上を目指すとともに，地域全体で子供を育てる体制づくりを目的に事業を展開している。

〈七ヶ宿町におけるこれまでの協働教育の取組〉

事業年度	名　　称	目　　的
H14～ H15 年度	地域教育力活性化モデル事業 （国庫補助事業）	地域における様々な現代的課題等に対応するため，多様な学習活動の機会や情報の提供，様々な機関・団体が連携することにより，地域における学習活動を活性化させる。（グラウンド・ゴルフ地域交流会）
H17～ H18 年度	コラボスクール推進事業 （県委託事業）	小学生の発達段階に応じ，地域社会が，学校とともに，子供たちの体験学習や現地学習などの環境を整え，自ら考え，自ら判断し，自ら行動する「生きる力」を育むことを目的に実施。（通学合宿，炭焼き体験）
H18～ H19 年度	家庭教育支援総合推進事業 （国庫委託事業）	すべての親やこれから親となる若い世代に対する学習機会の提供や，指導者の養成，父親の子育て参加など，きめ細かな家庭教育支援の取組を推進する。 （子育て支援講座）
H20～ H21 年度	家庭教育基盤形成事業 （県委託事業）	様々な状況にある保護者に，地域の実情を踏まえ，活動拠点を設け，「学習」「機会」「情報相談」をどう効果的に届けるかを模索するもの。 （子育てサポーターチーム設置）
H24 年度～	協働教育プラットフォーム事業 （県委託事業）	子供を地域全体で育むために，家庭・地域・学校をつなぐ仕組みをつくり，協働による教育活動を通じて，家庭・地域の教育力の向上を図る。

２　事業紹介

（１）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
ままカフェ	保育所・保健センターと共催で１才～２才児の親子を対象にサロンを開催する。	健康や栄養に関する講話などを奇数月の第３火曜日に実施。
子育て支援講座「親子人形劇」	保育所で１回と保育所と小学校の低学年を対象に１回実施している。	保育所と七ヶ宿町教育推進協議会の共催　５月 18 日・11 月２日
子育て支援講座「親子餅つき会」	保健センター・食改と協力し親子での餅つき会を実施している。	保健センターと共催 １月 19 日

ままカフェ

親子人形劇

親子餅つき会

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
地区ぐるみ講座「健康祭り」	健康づくり講話や，交流を兼ねてグラウンド・ゴルフを実施。	干蒲地区公民館 参加者：22 名
地区ぐるみ講座「ディスコン教室」	室内でできるニュースポーツを体験した。	横川地区公民館，関地区公民館 参加者：14 名・24 名
地区ぐるみ講座「防火教室」	消防署職員に防災の講話や消火器の使い方を指導していただいた。	干蒲地区公民館，長老地区公民館 参加者：23 名・17 名
女性講座 飾り巻き寿司教室	動物や花などの模様をつくる飾り巻き寿司教室を実施した。	みやぎ食育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ派遣事業 参加者：１回目８名　２回目９名
ジュニア・リーダー事業	子ども会活動に必要な技術・態度等について学習し，次代のリーダーを育てる。	会員数：44 名
ホタルの鑑賞会	町内のホタルの群生地を巡り，ふるさとの魅力を探る。	湯原地区元気な地域づくりとの共催で実施。 実施日：７月 14 日　参加者：40 名
わんぱく探検スクール「泥遊び」	田植え前の田んぼでゲームや競技などをして楽しむ。	実施日：５月 19 日 参加者：９名
わんぱく探検スクール「通学合宿」	親から離れ，子供達だけで生活し，生活の基本を身につける。	実施日：７月１日～５日 参加者：24 名

わんぱく探検スクール「川で遊ぼう」	横川で沢登りを実施。プールとは違う生きた水遊びを体験した。	実施日：８月２日 参加者：５名
わんぱく探検スクール「自然で遊ぼう」	周辺の草や木を使って工作するネイチャークラフトや木登りを実施した。	実施日：８月 10 日 講　師：森林インストラクター 参加者：５名
わんぱく探検スクール「親子ふれあい陶芸教室」	親子で作品をつくることで交流を深める。	実施日：10 月６日 講　師：蔵王町万風窯 参加者：９組 24 名

ディスコン教室

泥で遊ぼう

飾り巻き寿司教室

防火教室

自然と遊ぼう

ＪＬ初級研修

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
地域人材活用事業	①学校農園耕転作業支援	関小学校
	②炭焼き体験の指導	関小学校
	③茶道体験の指導	関小学校
	④かぶと虫の飼育指導	関小学校
	⑤農家の仕事体験の支援	関小学校
	⑥米作りの指導・支援	湯原小学校
	⑦そば作りの指導・支援	湯原小学校
	⑧そば・米収穫祭の寿司作り指導	湯原小学校
	⑨炭石けん作りの指導	湯原小学校
	⑩そばの石臼挽きの指導	湯原小学校
	⑪演劇シナリオ作成の学習会講師	七ヶ宿中学校
	⑫全校道徳の講師	七ヶ宿中学校

学校音楽祭	町内の小学校・中学校・高校が合同で実施している音楽祭です。	実施日：11 月 1 日 来場者：約 280 人
七ヶ宿町本読み応援隊	保育所や小学校を対象に本の読み聞かせを実施している。	活動場所：関小学校，関保育所 メンバー：３名
歴史探訪	小学校６年生を対象に町の歴史や文化財についての授業と史跡巡りを実施している。	講　師：教育委員会職員 参加者：関小学校６年生　７名

歴史探訪

七ヶ宿町学校音楽祭

湯原小学校稲刈り

３　考察

〇地域活動支援

事業のほとんどを町外講師に頼っている状態で町民の人材育成が大きな課題である。公民館事業に出ている高齢者等を中心に人材の育成を今後図っていく考えである。

少年教育は，年々参加者が減少し事業の見直しが必要になってきている。小学生だけを対象にするのではなく家庭教育とも絡めて親子で参加できる事業などを考案し，幅広く参加者を確保することが必要である。

〇家庭教育支援

親に対する学習の場の提供が課題である。保育所や学校と連携をとり親の集まる時間を利用して学習会を開催したいと考えている。内容についても，関係機関と連絡を取り合い，子供の年齢や親のニーズに合った学習を提供していく必要がある。

〇学校教育支援

地域人材活用事業では，総合的な学習の時間での活用が多く，それ以外の教科での活用が少ない。そのため，派遣される指導者も毎年同じで固定化されているように感じる。学校の要望を聞き，必要な人材を発掘し，より活用しやすいようコーディネーター的役割が必要である。

大河原町における協働教育の取組

１　現状

わが町の協働教育関連事業の取り組みは，平成に入ってから言えば平成２年度から始まった家庭教育学級をはじめ，１２年度から出前子育て講座，家庭教育ネットワーク事業，１５年度から職場体験，１６年度から託児ボランティア養成講座，１７年度から放課後子ども教室，１９年度から子育て理解講座などを実施してきた。その間，参加者は多くを学び，体験してきた。託児ボランティア養成講座の受講生により子育て支援サークルが結成するなどの成果も見られる。

現在，町内には，子育て支援関係団体が３つあり，これらは以前から活動を続け，保育サークルが発展的に子育て支援団体となったもの２つと先述の団体が１つある。保育ママたちのサークルも４つあり，児童館や児童センターにて自主的な活動を行っている。

また，地域の人材を活かした公民館事業「ボランティア講師による趣味の講座」が平成７年度にスタートし，これまで数十種類の様々な講座が行われ，現在も約２０の講座が町直営である中央公民館及び金ヶ瀬公民館にて実施されている。この他，啓発のため，町教育委員会と町父母教師連絡協議会とが合同で「子育て研修会（フォーラム）」の開催している。

２　事業紹介

（１）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
家庭教育学級 （子育て親育ち講座）	対象者：幼稚園･保育園児等の保護者及び職員 内容：講話	場所：幼保　人数：20～50 人 施設ごとにテーマを設定し，講話を行い，親達の相談・悩みに答える。
子育て親育ち講座 （出前子育て講座）	対象者：小幼保の保護者 内容：講話，実習（託児体験･子ども玩具作り等）	場所：小幼保　人数：60 人 実習を取り入れ，親達のリフレッシュを図る。おおむね好評。
子育てサポーター養成講座	対象者：一般町民 内容：講話，実習（託児･読み聞かせ等）	場所：町内　人数：10 人 町から団体へと運営が変わったが，毎年受講生がおり好評である。
保育所地域活動事業 （地域間･異年齢児交流）	対象：保育所児童及び一般町民 内容：入所児童と乳幼児とのふれ合いをはじめ，老若男女の地域住民など多世代との交流を促進する。	場所：保育所等　人数：多数 多くは高齢者世代と保育園児とが一緒のゲームやダンスでふれ合っているが非常に好評である。
乳児家庭全戸訪問事業 （こんにちは赤ちゃん事業）	対象者：生後４か月までの乳児 内容:乳児宅を保健師等が家庭訪問し，乳児及び保護者の心身の状態や養育環境を把握すると共に育児に関する不安や悩みの傾聴･相談，子育て支援に関する情報提供等を実施している。	場所：乳児の自宅 保健師等が自宅に個別訪問するため話がし易いようで様々な悩みや相談を聞いて不安解消に役立っているようである。

要保護児童地域対策事業	対象者：該当児童及び保護者 内容：児童虐待等による要保護児童等の早期発見や適切な保護･支援を目的とした福祉･教育･保健･医療･警察･司法等の関係機関・団体で組織する「要保護児童対策地域協議会」を設置し，円滑な連携･協力の下に，要保護児童等の情報交換や支援内容の協議等を行う。	場所：話し合いによる 年間を通して虐待と思われるものは見受けられない。しかし，今後このようなことは発生し易い社会情勢であり，通報体制など町民を含めた連絡網の整備が不可欠である。

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
ボランティア講師による趣味の講座	対象者：一般町民 内容：着付，籐手芸，書道，お茶，民謡ﾊﾟｿｺﾝ，陶芸，押し花，七宝焼など	場所：町内　人数：10～20 人 講師や町民の要望に応じて講師の技能を活かした講座を行う。リピーターが多く，愛好会の結成もある。
ジュニア・リーダー事業	対象者：子ども会・親子会等 内容：中高生を対象に子ども会リーダーとして知識の習得を目指す。 ゲームやダンスなど遊びを通して子ども達を楽しませる。	場所：町内　人数：要望に応じて 各行政区子ども会や保育所等の要望に応じて支援しているが，好評である。子ども会育成会と連携している。
地域子育て支援事業（子育て支援センター）	対象者：在宅乳幼児とその保護者 内容：ふれあい遊びや保育所･幼稚園児との交流，育児相談など	場所：幼保　人数:20～50 人 遊びと相談を主とし，保護者達には貴重な交流の場となっている。
子ども短歌･俳句･川柳展出前講座	対象者：小・中学生 内容：郷土の文人の短歌の佐藤佐太郎，俳句の山家竹石，川柳の蔦作太郎を讃え，子ども達に文芸にふれる機会を提供し，後継者の育成を図る。	平成 11 年度から毎年，文化協会と中央・金ヶ瀬の両公民館が共催で実施。表彰式を行い，学校にて出前講座も実施し，文芸への関心も高まってきている。
出前講座（一般町民向）	対象者：町民グループ（５名以上） 内容：役場担当課等から人材を集め，行政区や町民グループ等に出向いて関心のある話について説明を行う。	平成13年に開始したが殆ど需要がなく停滞している。これとは別に地域担当職員制度が協働のまちづくりの一環として平成 23 年 10 月から開始された。

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
放課後子ども教室 (子どもの居場所づくり事業)	対象者：小学生 (大小１～４)(南小１～６)(金小１～３) 内容：勉強会，体験学習，理科教室など学校により特色がある。	場所:小学校　参加人数:各25人前後 大小は勉強会，南小は体験学習，金小は理科教室中心など個性をもって対応しているが，途中からの脱退者もおり，工夫が必要である。
職　場　体　験	対象者：中学２年生 内容：希望する職場を訪問し，話や体験を通して職業観を磨く。	場所: 町内外の事業所 希望する業種が偏り，受入れ可能な多くの事業所が活用されない等の課題がある。
子育て理解講座	対象者：中学３年生 内容:託児体験･妊婦の疑似体験等を実施。	場所:各中学校 子ども達に好評で子育て意識が芽生えるきっかけとなる。
学校支援地域本部事業 (ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ事業)	対象者：小・中学生（全学年） 内容：人材紹介など３者が必要に応じて協力し合う。	場所:小中学校 地域からボランティアを募り，子ども達の学習を支援するが，マッチングが不可欠である。
インリーダー研修会	対象者：町内小学生５・６年生 内容：子ども会活動でリーダーとなる人材を育成のためゲーム･レクリエーション･野外活動の研修を行う。	場所：県内外の野外活動施設 地区育成会からの推薦された児童よりも自ら応募する児童が多い。地区内に育成会がない所もあるが，あっても連携がうすい地区が多い。

３　考察

現時点での課題は，内容的に似ているような講座もあり，目的や内容などの調整や精査が必要と思われる。講師や協力者等において，関係各課・機関やボランティアを含めた関係者との調整も不可欠になっており，支援体制の構築，更にはその充実が求められている。

また，希望する人材がうまく集まるか，講座に参加して欲しいような人がなかなか参加しないなどの課題はあるが，いずれにせよその事業は何のために実施するのか，目的が曖昧にならないように注意していかなければならないと思われる。

例えば，託児や読み聞かせのような子育て支援講座であれば，町教育委員会生涯学習課主催「子育てサポーター養成講座」，県大河原教育事務所主催「子育てサポーター養成講座」，県教育庁生涯学習課主催「子育てサポーターリーダー養成講習会」などが挙げられ，それらは初級から中・上級レベルとステップアップを目指しており，内容の充実が必要となる。

また，考慮すべきこととして，各々が役割分担を考えながらつながっていくようなことが，今後ますます重要となってくる。事業ひとつひとつが有機的にリンクして発展していくことが求められてくる。社会の課題・ニーズを把握しながら，時代に合った学習メニューを提供していかなければならない。

更に，社会教育的な立場から言えば，各年齢層に応じた講座・教室を公民館や体育館を含めた社会教育施設等で実施していく中で，地域の人材を活用して，できる限り家庭・学校・地域の３者にとってメリットがあるような「協働教育」を推進し，地域全体で育む「学びのコミュニティー」の形成を図っていくことが我々の役割であり，協働教育における「サプライチェーン」ができ上がることが理想である。

【各種支援事業のようすの一例】

（１）家庭教育支援事業

（子育てサポーター養成講座）

（家庭教育学級）

（２）地域活動支援事業

（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ講師による趣味の講座）

（３）学校教育支援事業

（進路学習「職業人に聞く」）

村田町における協働教育の取組

１　現状

（１）学社連携・学社融合の取組について

村田町の「学社連携」については，「学校」，「社会教育」各々が持っている教育資源（人，モノ等）を活用し，相互の教育活動を「支え合う」ことを目的とし，昭和６０年代から取り組まれてきた。取組を推進するため，学校における教務主任者会や校長会等の機会に併せ会議（学社連携会議）を開催し，各々の教育計画や課題などについて意見交換を行い，学社連携の理解度を深め，また，体制の構築を図ってきた。時代の移り変わりとともに，学校週５日制や総合学習の導入，生涯学習（自己学習）の推進など，教育現場も大きく変革し，各々が支え合う「学社連携」から，さらに一歩踏み込んだ「支え合いながら各々の目的を達成」する「学社融合」の取り組みへと切り替わってきた。「学社融合」では，今まで連携を図ってきたことはもちろんのこと，新たに「学校授業への出前講座」や「運動会の共催（地域・学校）」，「学校を活用（人，設備）した社会教育事業の開催」などに取り組み，より充実した教育活動の展開を視野に入れ取り組んでいる。

なお，「学社連携・学社融合」の主な取組の内容は次のとおりである。

□学校行事，社会教育事業の日程等の調整　【学校教育⇔社会教育】
□社会教育事業計画（単年毎）の配布（学校教員向け）　【学校教育←社会教育】
□社会教育管理物品貸出リスト（一般物品・スポーツ物品等）の作成，配布
【学校教育←社会教育】
□学校体育施設（体育館・グラウンド）の開放　【学校教育→社会教育】
□生涯学習講師の派遣事業（名簿作成，配布）
（鉄人マップ・生涯学習リーダーズバンク）　【学校教育←社会教育】
□社会教育・生涯学習事業における講師（学校教員の派遣）　【学校教育→社会教育】
□学校授業や行事における講師（社会教育関係職員の派遣）　【学校教育←社会教育】
□社会教育補助事業（国，県事業）の説明等　【学校教育←社会教育】

（２）協働教育の取組について

子供たちの「健全育成」や「生きる力を育む」ことを目的に，「学校」「家庭」「地域」が各々の役割をもとに相互に連携・協力し，「地域全体で子供を育む環境，仕組みづくり」に取り組んでいる。そのことにより，「学校教育」「家庭教育」「地域教育」の充実や「生涯学習機会」の拡充，成果の場として，さらには「地域の活性化・教育力の向上」を図っていきたいと考える。

なお，「協働教育」の主な取組の内容は次のとおりである。

□コラボスクール推進事業の取組

平成１９年度から２年間，地域と学校が協働して教育活動を展開するコラボスクール推進事業（実践校指定）に取り組んだ。この取組は，「地域で子供を育てる」活動を通し，地域の教育力の向上，学校教育の充実を図り，社会の中でたくましく生きる子供を育成することを目的とした。

・実施期間：平成１９年度～平成２０年度（２年間）
・実 践 校：村田第二小学校
・内　　容：【運営】コラボスクール支援協議会，学校区推進委員会の設置
【実践】農業体験活動，昔あそび活動，しめ縄づくり等

□学校支援事業（学校支援地域本部事業）の取組

平成２０年度から３年間，「学校を拠点に明るく元気な活力ある地域づくり」を目標に学校支援事業（学校支援地域本部事業）に取り組んだ。コラボスクール推進事業で行った「地域で子供を育む体制づくり」，「地域と学校が協働した教育活動」を継続，発展させ，全ての学校において取り組み，さらなる学校教育の充実，ボランティア活動を通した生涯学習機会の充実を図った。

・実施期間：平成２０年度～平成２２年度（３年間）
・実 施 校：全小・中学校
・内　　容：【運営】学校支援協議会，中学校区推進委員会（２学校区）の設置
【実践】事業周知（リーフレット，ポスターの作成・掲示）
学校支援ボランティアの登録，名簿作成，学校支援活動

□各学校における協働教育担当者の配置
学校支援事業（学校支援地域本部事業）に取り組むため，各学校に協働教育の担当者を配置した。社会教育・生涯学習や学校における「窓口的役割」を明確にすることで，事業の円滑な取組や学社連携・学社融合の推進を図っている。

□協働教育プラットフォーム事業の取組
平成２３年度から村田町学校支援事業（学校支援地域本部事業）を継続，発展させ，協働教育プラットフォーム事業に取り組んでいる。「学校教育支援」に「家庭教育支援」「地域活動支援」を加え，「学校・家庭・地域の連携・協働による子供を育む体制づくり」の充実を図れるよう事業に取り組んでいる。

２　事業紹介

（１）家庭教育支援

事　業　名	内　容	備考（会場・対象・参加人数）
家庭教育学級	子どもの応急処置	沼辺幼稚園・村田保育所 保護者　計 138 名
	親子でふれあい遊び	村田幼稚園・沼辺幼稚園 親子　計 328 名
	食育講話 親子ですいとんづくり	村田幼稚園・沼辺幼稚園 村田保育所 親子　計 450 名
	食育講話 おやつ作り	村田保育所 保護者　計 17 名
	親子の コミュニケーション講座	村田幼稚園 保護者　計 129 名
家庭教育出前講座 「パネルシアターを観よう」	パネルシアターの上演 （４回）	村田幼稚園・沼辺幼稚園 子育て支援センター 親子　計 347 名

【子どもの応急処置の様子】

【親子でふれあい遊びの様子】

【食育講話の様子】

（２）地域活動支援

事　業　名	内　容	備考（会場・対象・参加人数）
野外活動体験事業 「夏の子ども村キャンプ」	異年齢集団で自然体験活動 ※運営はｼﾞｭﾆｱ･ﾘｰﾀﾞｰ	南蔵王野営場（２泊３日） 小・中・高校生　計 81 名
野外活動体験事業 「それゆけ！！むらた探検隊」	ふるさとの自然・歴史学習	村田町内 小学生及び保護者　計 17 名

事　業　名	内　容	備考（会場・対象・参加人数）
野外活動体験事業 「春の子ども村キャンプ」	異年齢集団で自然体験活動 ※運営はｼﾞｭﾆｱ･ﾘｰﾀﾞｰ	村田町中央公民館（１泊２泊） 小・中・高校生　　計 60 名
天体観測講座 「日食ってなぁに？」	金環日食の事前学習	村田町中央公民館 小・中学生及び保護者 計 29 名
天体観測講座 「星空観測会」	月や木星，冬の星座の学習	村田町中央公民館 小・中学生及び保護者 計 31 名
文化体験プログラム 「七夕飾りを作ろう」	五節句の学習（七夕）	村田町歴史みらい館 幼・小学生及び保護者 計 25 名
文化体験プログラム 「蔵の町むらた布袋まつり」	地域行事体験（祭り） ※山車の引手役	村田町内 小学生及び保護者　　計 123 名
文化体験プログラム 「小正月行事を体験してみよう」	五節句の学習（小正月）	村田町歴史みらい館 幼・小学生及び保護者 計 30 名
文化体験プログラム 「雛まつりを楽しもう」	五節句の学習（雛祭り）	村田町歴史みらい館 幼・小学生及び保護者 計 30 名
文化体験プログラム 「常夜灯を作ろう」	年中行事の学習（お盆）	村田町中央公民館 小学生及び保護者　　計 35 名
サイエンスクラブ 「サイエンスでマジック」	ゴムや磁石，リングを使った創作活動	沼辺地区公民館 小学生及び保護者　　計 31 名
サイエンスクラブ 「自分だけの万華鏡を作ろう」	鏡の学習を通した創作活動	沼辺地区公民館 小学生及び保護者　　計 11 名
サイエンスクラブ 「ｸﾘｽﾏｽｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝを作ろう」	ＬＥＤランプを使った創作活動	村田町中央公民館 小学生及び保護者　　計 28 名
青少年活動支援事業 「親子でランプ作り」	子ども会活動の支援	中山集会場 子ども会員及び保護者 計 36 名
ジュニア・リーダー活動	子ども会活動支援 社会教育事業参画	通年　　会員 34 名

【夏の子ども村キャンプの様子】

【天体観測講座の様子】

【常夜灯を作ろうの様子】

（３）学校教育支援

事　業　名	内　容	備考（実施校等）
安全支援（登下校時）	児童・生徒の登下校の安全見守り	村田町内
安全支援（校外活動）	登山支援，まち探検，園外保育	町内各幼小中学校
部活動支援	部活動の指導	村田第二中学校
図書整理支援	校内図書の整理，修繕	村田小学校 村田第二小学校

事　業　名	内　容	備考（実施校等）
総合学習支援	昔あそび，みそ作り，郷土芸能指導 戦争講話，議会体験等	各小中学校
環境整備支援	校内マラソン大会走路の除草 学校敷地内の庭木剪定	村田第二小学校 村田第一中学校 村田第二中学校
農業体験学習支援	稲作や紅花，大豆等栽培指導等	各小学校
職場体験学習支援	町内各企業等での勤労体験	村田第一中学校 村田第二中学校
プール清掃支援	学校プール清掃	村田小学校
本の読み聞かせ支援	朝，放課後の読み聞かせ	各小学校

【総合学習支援の様子】

【環境整備支援の様子】

【農業体験学習支援の様子】

３　考察

（１）成　果

□地域で子供を育むための体制の整備，気運の醸成
□地域に根ざした学校づくり（開かれた学校づくり）
□より充実した教育活動の展開（学校教育，地域教育）
□地域（世代間交流等）との触れ合いによる子供の情操教育の充実
□町民の生涯学習機会（学習・成果発表）の充実
□地域コミュニティの活性化（人づくり，人とのつながり）

（２）課　題

□母体組織等の確立（組織，運営の定着）
□町民や関係機関，団体等の理解，協力（事業趣旨の共通理解）
□人材の育成と確保（コーディネーターの養成，支援ボランティアの発掘）
□支援ボランティアの活用と意欲の維持（活動場所の確保，提供）
□領域拡充による事業運営の調整（家庭・学校・地域）
□行政機関によるサポート

（３）まとめ

現在，「協働」の推進，「協働教育」の充実を図るため，「プラットフォーム事業」を中心に事業に取り組んでいる。今年度で事業に取り組んでから５年目を迎え，「地域」や「学校」など，事業に携わっている方々の声を聞くと満足度が高く確実に成果をあげている。今後も「継続」することを大切に，そして，さらなる「発展」を視野に入れ，「組織体制の充実」，「各領域における支援活動（学校教育支援・家庭教育支援・地域活動支援）の充実」に努めていきたい。

また，この取組を通して，あらためて社会教育の理念である「人づくり」「地域づくり」を大切に「活力ある元気な地域づくり」を目指すとともに，「未来を担う心豊かな子供たち」を地域全体で育んでいきたいと考える。

柴田町における協働教育の取組

1　現状

現代の社会，そして，子供を取り巻く環境はめまぐるしく変化し，子供の成長に欠かせない多様な仲間，また，保護者，学校の教員以外の「第３の大人」との関わりも減少傾向にある。加えて「家庭・地域・学校のそれぞれが抱える問題や課題を単独で解決することが難しい状況」にあり，子供の教育は三者が相互に連携しつつ社会全体で取り組むことがますます不可欠となっている。

これらの実態を踏まえ，本町では，平成１６年度から「家庭教育支援総合推進事業」に取り組んだ。その内容は子育てサポーターの養成や派遣，また，子育て学びサークルの支援や小中学生，その保護者を対象とした命の尊さや家族の絆，家庭教育に関する学習の機会の提供である。

さらに平成１８年度からは町内の生涯学習施設等を活用した安全･安心な子供の居場所づくりを目的に地域住民との交流活動を行う「地域子ども教室事業」を実施した。また，地域と学校の協働による体験活動を通して，児童が地域の良さや地域の人との交流の大切さを理解し，地域をよりよくしようとする意欲や態度を育てる「コラボスクール推進事業（槻木小)」にも取り組んだ。そして，学校教育と社会教育の一層の連携・情報交換を図るため「学社連携推進委員会」を組織した。

現在，これらの成果を踏まえ，平成２３年度からは家庭・地域・学校をつなぐ仕組みをつくり，協働による教育活動を通じて，今まで以上に家庭・地域の教育力の向上や学校教育の充実を図り，子供たちの健全育成や地域住民の自己実現，さらに社会参加の機会につなげることも目的とした「柴田町協働教育プラットフォーム事業」を展開している。

2　事業紹介

（1）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
子育て親育ち講座	町内各小学校の就学時発達検査の待ち時間を活用し，家庭における基本的な躾の重要性について保護者が学ぶ機会を提供する。 講　師：白石市教育委員長　高橋　久　氏	柴田町子育てサポーターには親子の触れ合い遊びの披露と託児の協力をいただいている。
ピカイチイクメン講座 パパとワークわく！	父子のふれあいや父親の積極的な育児参加を促すとともに，父親同士の交流を深めながら子育てについて楽しく学ぶことをテーマとした講座，教室 講　師：ＮＰＯ法人しばた子育てゆるりん 大河原教育事務所社会教育主事	第１回パパ工房（工作） 参加親子 11 組 25 名 第２回パパごはん（料理） 参加親子 11 組 24 名 第３回サバメシ塾 参加親子 16 組 36 名
「おやじの会」の設立支援	単位子ども会や育成会の活動，小中学校ＰＴＡへの父親の参加を促すとともに，次代の地域づくりの中心となる世代の横のネットワークづくりを目指す。	平成 24 年 11 月，「東船岡おやじが楽しむ会」が設立し，東船岡秋祭りで遊びのブースを出店するなど活動を開始した。

「子育て支援ネットワーク協議会」との連携と情報交換の強化	子育て支援ネットワーク協議会 →子育て支援に関する事業の企画・立案や柴田町子育てサポーターの養成・派遣，関係機関・施設間の連絡・連携体制の強化を図ることを目的に年４回開催。 →事務局は子育て支援センター	構成員 12 名 子育て支援センター，児童館，幼稚園，保育所，健康推進課，子育てサポーターリーダー，社会福祉協議会，子ども家庭課，生涯学習課
家庭教育に関する講演会の実施	町内小中学校や生涯学習センター，保育所，児童館と連携しながら，その保護者を対象に家庭教育に関する学習機会を提供する。 講師：大河原教育事務所社会教育指導員 伊藤　誠　氏	平成 24 年度は船迫生涯学習センター，柴田児童館，三名生児童館，船迫児童クラブで開催

【子育て親育ち講座】

【イクメン講座】

【家庭教育講演会】

（２）地域活動支援

事業名	内　容	備　考
柴田町子どもフェスティバルの開催	子ども会育成会連絡協議会，柴田町教育委員会の共催事業。柴田町の子供が一堂に会し，地区子ども会等が設けた遊びのブースで様々な遊びを体験する。異年齢集団や異世代間，親子の交流の場を提供する。	11 月 11 日開催 参加者 600 名 子どもフェスティバル実行委員会を組織し企画・運営 （今年度は５回開催）
少年教育の充実 ①自然体験キャンプ ②わくわくチャレンジ合宿通学	①親元を離れ共同生活をすることにより，たくましい態度と意欲を育て，仲間たちと協力し合い人を思いやる心を育てる。 ②子供たちが家庭を離れ，日常生活に必要な作業を直接体験することによって，自主性や協調性，社会性を身につける。	①７月 15，16 日実施 町内小学４年生対象 参加者 22 名 ②10 月 24～27 日実施 町内小学５，６年生対象 参加者 32 名
ジュニア・リーダーの育成	子ども会活動の活性化，次世代のリーダー育成 →初級研修会の実施，中級・上級研修会への派遣，姉妹都市交流への参加 →子ども会活動・子どもフェスティバルの支援，自主企画イベント，定例会の開催	在籍数 高校生 11 名　中学生 19 名 計 30 名 初級研修会 ７月 14～16 日開催 受講者 12 名

自然体験，親子交流，奉仕体験，世代間交流活動等の実施	学校，家庭ではなかなかできない体験，異世代・親子の交流の機会の提供を，各施設・各生涯学習センター等と連携しながら実施	日食勉強会・日食ウォーク 竈（かまど）体験会 キッズサッカー教室

【柴田町子どもフェスティバル】

【ｼﾞｭﾆｱ・ﾘｰﾀﾞｰ初級研修会】

【自然体験キャンプ】

（３）学校教育支援

事業名	内　容	備　考
「学校支援ボランティア」の派遣	学校の支援要請に応じて「学校支援ボランティア」を派遣する。 あわせて，平成 23 年度に新規整備した「人材バンク」登録者の活躍の場としても位置付ける。	登録者数（１月末現在） 個人 44 名 11 団体（122 名） 合計 166 名 活動状況（１月末現在） 回数 35 回，活動人数 160 名 ※通年及び複数回の活動も１回としてカウント
キャリア教育支援 ①職場体験学習受入先企業のコーディネート ②「ビジネスマナー講座」の開催 ③キャリアセミナー「職業人の話を聞く会」の開催	町内中学校が推進する「志教育」，「進路指導・キャリア教育」等の教育活動を教育委員会や地域が支援する体制を整備し，学校教育の充実を図る。 ①町内３中学校の職場体験学習の実施にあたり，学校教育支援事務局（生涯学習課）が窓口となり，町内の事業所・企業等に受入依頼，連絡調整を一括して行う。 ②大河原商業高校の出前講座「社会で通用するビジネスマナー」を町内３中学校共通のプログラムとして実施する。 ③町内外の様々な職業人との車座での触れ合いや講話を通して，自らの生き方や将来に対する夢や志を膨らませ，適切な進路選択や決定につなげる学習活動を行う。	引受事業所数 49 事業所 （船迫中２学年　26） （槻木中２学年　31） （船岡中１学年　39） ③少人数編成の生徒対象講師数 槻木中２学年　16 名 船迫中２学年　10 名 船岡中１学年　18 名 学校，ＮＰＯ法人ハーベスト，教育委員会との協働による事業展開
学社連携推進委員会の充実	平成 18 年度に立ち上げ，年２回開催されている学社連携推進委員会の一層の機能の充実を図り，学校教育と社会教育とが相乗効果を発揮し，相互の教育効果を高め，共に生涯学習の基盤整備を図る。	町内各小中学校協働教育担当者，町内各生涯学習センター等学社連携担当者，生涯学習課職員（事務局）の計 26 名で構成

【箏学習支援】

【家庭科調理実習支援】

【中学校キャリアセミナー】

３　考察

（１）成果

①家庭教育支援を通して，子育てで悩む保護者を支え，保護者同士の結びつきを深めることができ，保護者の安心が子供の情緒安定にもつながっていった。また，事業を通して町内の幼保小中の縦の連携，情報交換を密にすることにより，町として系統立てた家庭教育支援体制を構築することができた。

②学校教育支援を通して，子供たちはより専門的な知識・技能をもった地域の方の指導により，興味・関心の高まりや学びが深まった。また，地域の方との異世代間の交流を通して，学校だけでは身につけられないコミュニケーション能力が育まれたとともに，地域を知り，地域の一員としての自覚を養うことができた。

③学校においては，地域の特色を生かした多様で充実した教育活動が展開できたとともに，教師も新たな知識・技能・指導法を習得し授業力が高まった。また，地域を知り，地域との信頼関係を構築し「開かれた学校づくり」に結びついた。

④地域においては，家庭教育支援・地域活動支援・学校教育支援を通して，指導者や活動に携わるボランティアが自分の持っている技術や知識等を活かす機会を得ることで自己実現が可能となり，さらに自分の資質の向上に努めることで，地域の活性化，地域の教育力の向上につながった。

⑤地域の様々な世代の様々な人々が多様な形で教育に関わることにより，地域社会に参画することの意義を，身をもって子供たちに示し，子どもたちが将来に向けて視野を広げ，高い志を持つことにつながった。

⑥学校支援ボランティアや子育てサポーター，子ども会育成会活動に関わる人材等，この協働教育に関わっている個人や団体のネットワークが広がり，啓発活動を行うことで，地域の人材を発掘できた。また，町各課，各種事業と連携することでより充実した事業展開を図ることができ，生涯学習社会の推進，「まちづくり，人づくり」につなげることができた。

（２）今後の課題

①協働教育協議会の立ち上げ（設置時期，構成員）とコーディネーターの配置

②ボランティア研修会等の企画

③地域や学校への事業の説明，啓発活動の進め方

④各生涯学習センター，各小中学校，首長部局との一層の連携・情報交換

川崎町における協働教育の取組

１　現状

川崎町では「生きる力」と「深い郷土愛」に満ちた町民の学びを培う教育の実現を目指し，教育振興計画に様々な施策を掲げ取り組んでいる。しかし計画を遂行させるためには，学校・家庭・地域・行政が一体となり，地域全体で子どもを温かく見守り育てる環境づくりが必要不可欠であることから，平成２１・２２年度の２年間，学校地域支援本部事業に取り組んできた。

この事業は，学校教育活動を支えるために地域ボランティアを募り，本の読み聞かせや部活動の指導をはじめ，太鼓や踊りの郷土芸能指導など，様々なボランティア活動を通じ，学校との関わりを持つことで活躍の場が広がり，地域住民の生きがいづくりにつながっており，また，子どもたちは地域の方々と一緒に学ぶことで，コミュニケーション能力や絆が次第に深まってきた。

平成２３年度からは協働教育プラットフォーム事業を受け，これまで実施してきた学校支援本部事業を基盤とし「みんなで育てよう　おらほの子ども　かわさきっ子」をキャッチフレーズに「かわさきっ子応援団」を組織し，協働で子どもを育む支援体制を整え，現在，様々な協働教育事業を展開しているところである。

２　事業紹介

（１）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
家庭教育サポートチームの設置	町内の子育てサポーターとの定期的な情報交換を行い，子育てサポート状況を把握・推進	幼児教育課・子育て支援センター職員と連携 各種講座・研修会へ参加
家庭教育講座	親子を対象とした各種教室・講座の開催 子育てサポーター養成講座への参加 ・お手玉づくり講習会 ・手づくりおやつ教室	子育てサポーター，ボランティアが講師として実施
家庭教育学級 幼児教育学級	学校・ＰＴＡが主催する家庭教育・幼児教育講座の支援	研修会，講演会等の講師に支払う講師謝金の補助
子どもの本展示会	読み聞かせボランティアの活動する場の創出と園児との交流	県図書子どもの本移動展示会事業を活用

手づくりおやつ教室

お手玉づくり講習会

本の読み聞かせ

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
教育講演会の開催	夢の実現に向けて，確かな学力と生きる力の育成 ・志教育講演会 ・学びの支援講演会 ・防災教育講演会	児童生徒及び保護者対象
地域資源を活用したプログラム	豊かな自然環境の中での体験活動を通した郷土愛の育成 ・夏まつり等への参加 ・小学生サマーキャンプ	夏まつり，農林業祭等への参加 中学校吹奏楽部，小学生鼓笛隊等
世代間・異年齢交流	子どもから大人まで年齢を問わない相互の交流・親睦 ・かわさき朗読会 ・おやじの会活動 （キャンプ，トレッキング＆芋煮会） ・中学生保育実習 ・幼高サツマイモ苗植え交流	
ジュニア・リーダー事業	ジュニア・リーダーとしての資質の向上（中学生・高校生対象） ・各種研修会への参加 ・管内交流研修会等への参加 ・地域活動への参画等	ジュニア・リーダーサークル　Ｐ・Ｔ・Ｅ

Ｊ・Ｌ初級研修

学びの支援講演会

園児・高校生の交流

中学校保育実習

夏まつり出演（中学校吹奏楽部）

おやじの会トレッキング

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
本の読み聞かせ	児童への本の読み聞かせ ・ボランティアの活動 ・サークル「絵本ママ」活動	各小学校，こども園など 朝の学活の時間帯実施
校外学習活動	校外における学習活動への支援 ・役場見学（議会体験） ・町探検学習 ・清掃活動（ゴミ，空き缶回収） ・そば打ち交流会 ・社会見学等補助 ・スキー・そり教室支援 ・収穫祭（地域交流）	地域ボランティアが活動支援 こども園，幼稚園 小・中学校
学習活動支援	学習活動への支援 ・こんにゃくいも植え ・環境問題学習 ・幼稚園わらすこ広場（昔あそび） ・不審者対応避難訓練 ・みそづくり	地域ボランティアが活動支援 こども園，幼稚園 小・中学校
セカンド・スクール事業	蔵王少年自然の家が第２の学校，家庭の機能を果たしながら，子どもたちが自然の中で様々な体験活動を行う長期集団宿泊事業 ・登山活動支援 ・キャンプファイヤー ・自然体験活動など	町内小学５年生を対象に実施
水辺の安全教室（水の事故ゼロ運動）	水辺における水難事故を自ら防ぐ学習活動と海洋性スポーツの楽しさの普及 ・紙芝居による危険個所説明 ・着衣泳，ペットボトル浮遊 ・カヌー試乗体験	Ｂ＆Ｇ海洋センター職員が講師として活動
伝承芸能指導	地域に伝わる伝統芸能の伝承を図るため，子ども達の興味・関心を促し，将来の担い手につなげる活動の推進 ・支倉豊年踊り練習 ・川内太鼓練習 ・その他伝承伝統芸能	

本の読み聞かせ

施設見学（議会体験）

水辺の安全教室

歩道清掃活動

みずでっぽうづくり

川内太鼓指導

セカンド・スクール　蔵王登山

キャンプファイヤー

社会見学（山元町）

３　考察

学校支援事業を皮切りに，川崎町の協働教育とは「地域全体で子どもたちを育む」ことで，将来の川崎町を支え，未来を切り拓く可能性を秘めた故郷の宝を見守ることにつながっていることを再認識するきっかけになったのではと感じている。

様々な事業に関しても理解が広がり，学校と地域の連携が深まり，ボランティア参加による授業づくりも定着してきており，今後においては，現在抱えている課題等を改善し，よりよい協働教育の在り方を目指し，更なる連携の強化を図りながら取り組んでいくことが重要であると考えている。

＜今後の課題等＞

①活動の機会がないボランティアへの対応
②家庭教育支援チームの情報交換の活発化
③子育て世代を対象とした講座の開設
④家庭教育の向上（親学習）
⑤定期的な協働教育担当者会議の開催
⑥かわさきっ子応援団協議会の定期的な開催
⑦人材発掘活動

丸森町における協働教育の取組

1　現状

丸森町では，少子化による児童・生徒数の減少により，教育環境の見直しが必要とされている。将来の丸森を担う子供たちを育てるため，子供にとってより良い教育環境づくりを推進するとともに，家庭・地域・学校の連携を強化した地域ぐるみでの子育てと教育に取り組むことを第四次長期総合計画の中で掲げている。

丸森町におけるこれまでの協働教育の取組

事業年度	名　　称	目　　的
平成 18 年度	地域子ども教室事業 （国委託事業）	集団下校をするために，低学年の児童が安心・安全に待機するスペースを提供し，放課後における子ども達の体験活動や地域住民との交流活動を推進する。
平成 19 年度～	放課後子ども教室推進事業 （国・県補助事業）	放課後に子ども達の安全・安心な活動拠点を設け，子供の体験活動や地域との交流活動などを推進する。
平成 24 年度	協働教育プラットフォーム事業（県委託事業）	家庭教育・学校教育・地域活動の各々の分野について，支援事業を行う。

2　事業紹介

（1）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
家庭教育セミナー	心豊かな健全育成を目指し，家庭教育の意義や重要性を認識し，家庭・学校・地域が連携して役割を果たすための共通理解を図る	丸森町 PTA 連合会，丸森町子ども育成会と共催
家庭教育支援教育講演会等事業	町内小中学校単位 PTA において計画・実施される教育講演会等の学習活動に連携して取り組むことにより，家庭教育の充実・向上を図る。	教育委員会は，事業の企画立案に対する指導助言，謝金の負担を行う。
放課後子ども教室	放課後に小学校の余裕教室を活用し，子ども達の安全で安心な活動拠点を設け，地域の方々の参画を得て体験的活動や地域の方との交流活動を推進する。	筆甫小学校・大内小学校の２校で実施。 平成 24 年度より大内小学校の放課後子ども教室は子育て支援課管轄の放課後児童クラブと併設。 登録児童数筆甫小学校６名，大内小学校 23 名

家庭教育セミナー

家庭教育支援教育講演会等事業

放課後子ども教室

（２）地域活動支援

事　業　名	内　　容	備　　考
出前講座	町民より要望のあったテーマに基づき，講師を派遣して講座を行う	町内小中学校の授業等にも講師派遣。
生涯学習推進町民のつどい	生涯学習推進町民のつどいを開催し，町内小中学校・各まちづくりセンターの生涯学習の活動内容を掲示，発表するなどして，生涯学習への理解・関心を高める。	つどいを生涯学習推進協力員の研修の一つとして位置付け，協力員の意識向上を図る。
「まるもり生活名人マップ」作成	生涯学習を支援してもらう指導者を指導する内容別に記録した「まるもり名人マップ」を作成し，出前講座の派遣などの際に活用する。	登録人数 180 人 丸森町文化協会加入団体 47 団体 ボランティア活動グループ 27 団体 (平成 17 年度版)

出前講座

生涯学習推進町民のつどい

「まるもり生活名人マップ」作成

（３）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
丸森学推進事業支援	生徒のコミュニケーション能力アップと丸森町民としての誇りを育てることを目標とする志教育推進の支援を行う	丸森中学校で実施している事業の支援。
丸森防災教育支援事業	児童生徒への防災に対する意識を高めるため，町内小中学校において計画・実施される防災教育に連携して取り組むことにより，防災教育の充実・向上を図る	教育委員会は，事業の企画立案に対する指導助言，謝金の負担を行う。
学社連携・融合・協働教育会議	学社連携・融合・協働教育会議の実施	町内小中学校と教育委員会とで情報交換をする場となる。

丸森学推進事業支援

丸森防災教育支援事業

３　考察

◇家庭教育支援

家庭教育セミナーを開催し，保護者の学習機会としているが，全体的に見ると参加者が減少する傾向にあり，家庭教育に関して本当に学習してほしい保護者が参加していないのが現状である。学習内容についても子育てに関するものから保護者が興味のある内容が優先されるようになっており，今年度は親子で参加できる内容のセミナーとしたところ，参加者が増加し，参加者の評価も高かった。放課後子供教室に関しては指導員となる人材が不足しており，指導員が急遽辞めざるを得ない状況となった場合に新たな人材の迅速な確保が困難であることが課題である。

◇地域活動支援

出前講座については毎年利用者が増加しているが，これまで利用がなかった学習団体にも活用していただけるよう，さらに広報・周知を充実させていくことが必要である。また，生涯学習推進町民のつどいについては，選定する講師によって参加者数が変わるという面もあるため，町民のニーズにあった講師選定が課題となる。まるもり生活名人マップは平成１７年改訂のため，更新が必要である。

◇学校教育支援

学社連携・融合・協働教育会議については，小中学校での行事等により担当者との日程を合わせて開催する事が難しく，開催回数を増やせないことが現状である。また，丸森学推進事業の支援では中学校の生徒が修学旅行の際に丸森の名産品を東京の百貨店などで説明・販売を行うために，地域事業者の支援が必要となる。地域振興の側面もあるが，あくまで学校教育活動の一環でおこなっているという立場を地域事業者等に対して理解して頂くことが必要である。

仙南広域における協働教育の取組

1　現状

視聴覚教材センターにおいては、教材・機材の貸し出しや視聴覚教材センターフェスティバル等を通じて、子育て支援を推進しています。

また、仙南芸術文化センターにおいても、子育て広場（えずっこひろば）を開設し、子育て支援を推進しています。

2　事業紹介

（1）家庭教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
視聴覚教材センターフェスティバル	視聴覚教材センター所有の教材上映や紙芝居の展示、最近上映された映画の上映等を通して、圏域住民の方々に視聴覚教材センターをより身近に感じて、親しみをもってもらう。 会場：えずこホール※大ホールでの映画上映は親子が楽しめるアニメーションを選定し、上映。映画『長ぐつをはいたネコ』の上映や、教材センター所有の 16 ミリフィルム『セロひきのゴーシュ』、『どんぐりと山猫』他 13 本の上映、仙南地区自作視聴覚教材コーナーや太陽望遠鏡体験コーナーなどを設置。	対象：圏域住民 入場者：のべ 1,029 名(H24)
えずっこひろば	えずこホールの住民創造グループの一つである託児ボランティア（えずこキッズクラブ）が月１回開催。	対象：子育て中の親子 利用者：１０名程度

視聴覚教材センターフェスティバルのようす（H24.10.21）

「えずっこひろば」のようす

「えずっこひろば」のチラシ

（２）学校教育支援

事　業　名	内　　容	備　　考
職場体験	えずこホールや各消防署において圏域内の中学生に対して職場体験を実施する。	対象：圏域内市町中学生
アウトリーチ（エデュケーション・プログラム）えずこキャラバン・音楽・演劇・ダンスアウトリーチ	国内の若手トップクラスのアーティスト、演出家、ダンサー振付家によるアウトリーチ事業。小学校等で教育普及活動と絡めて実施する。	対象：圏域内市町小学生

「アウトリーチ」のようす

（３）その他

○教材・機材整備及び提供事業

事　業　名	内　　容	備　　考
年間を通した教材・機材の貸出	圏域内の学校教育及び社会教育関係団体向けに、家庭教育や子育て支援に関する教材の貸出、及びそれに関わる機材の貸出を通年実施。	対象：圏域内学校教育及び社会教育関係団体

○人材育成事業

事　業　名	内　　容	備　　考
AZ９ジュニア・アクターズ養成事業	次代を担う子どもたちと地域の文化をはぐくむことをテーマとし、高度な総合芸術である演劇への参加を通して、将来の文化活動を担う人材の育成を図る。	対象：圏域内小学４年生から６年生

３　考察

（１）視聴覚教材センターフェスティバルについては、視聴覚教育指導員との連携によって進められる事業であるので、協力をいただける開催時期の設定及び集客が見込める映画の選定ならびに周知の徹底を図る必要がある。

（２）「えずっこひろば」については、利用者から授乳室の設置要望があり、また、ある程度ひろばの開催は定着してきているが、グループでの利用が多くなってきていることから、ひろば開催の周知の仕方の徹底を図る必要がある。

（３）AZ９ジュニア・アクターズ養成事業については、結成してから２０年目という節目の年ということで、２０周年記念公演を平成２５年２月１０日（日）１１日（祝・月）にえずこホールで開催することとなっている。

（４）全般的にいえば、仙南広域としては、各市町のように直接的な事業展開ではなく、間接的に各市町の事業のお手伝いをするといったスタンスで、協働教育というか、家庭教育の中の子育て支援をこれからも各市町と連携しながら、進めていくことになると考える。

資料（宮城県協働教育プラットフォーム事業）

家 庭 教 育 支 援 の 事 例

○市町村協議会（事務局：市町村教委）

○活動方針，年間計画の作成
企画・運営会

○協議会委員
幼・保・小・中学校，自治会，ＮＰＯ，企業，社会教育団体，保健師，民生委員　家庭教育サポーターリーダー，社会教育委員等

コーディネーター
社会教育主事等

家庭・学校・地域支援ボランティア

主な事業
・家庭教育サポートチームの設置

・親の学び塾の設置

講座開設，出前講座

家庭教育相談の場
子共と地域の交流の場

地　域
家　庭
住　民
子ども
企　業

1　家庭教育サポートチームの活動（例）

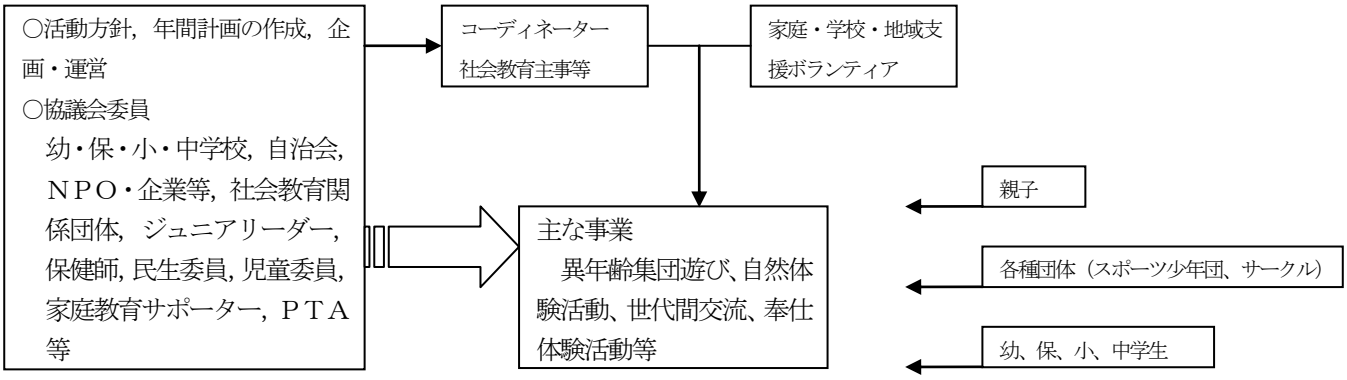
◇事業名：家庭教育サポートチームの設置	
【事業の目的】 家庭教育サポートチームの活動（訪問・相談等）により、親の学習や育ちを支える。	【開催場所】 ・公民館や学校の余裕教室等 ・企業
【内容】 ○場の提供（自由来館） ①家庭教育や子育てについて気軽に話し合える場の提供 ②地域の人材を活用した関わりの場の提供　（地域の人と親・子ども・親子） ※②を実施する中で、①を提供することも考えられる。 ○携帯メールや電話での相談対応 ○企業を訪問しての家庭教育相談の実施	

2　「親の学び塾」活用（例）

◇事業名：家庭教育講座	
【事業の目的】 外部講師を活用した講座を開催することにより，より専門的な分野での親の学びを提供する。	【開催の場所や機会】 ・公民館や学校の余裕教室等 【講師】 ・外部専門講師，スクールカウンセラー等
【内容】　・小1プロブレム，食育，不登校，いじめ，思春期の子どもへの接し方等について	
◇事業名：出前講座	
【事業の目的】 学校や企業に出向いて、講座を開催することにより、より多くの親に学ぶ機会を提供する。	【開催の場所や機会】 ・学校の学年行事、企業等 【講師】 ・県に登録している家庭教育サポーターリーダーや家庭教育サポートチーム員等
【内容】　・家庭教育手帳等を活用した情報提供、望ましい親のあり方等	
◇事業名：親子ふれあい体験講座	
【事業の目的】 親と子が参加する体験講座を開催することにより、親子が触れ合う機会を通じて，愛着形成を促す。	【開催の場所や機会】 ・公民館や学校の余裕教室等 【講師】 ・地域の人材（読み聞かせボランティア等）家庭教育サポートチーム員、MAPの県内指導者等
【内容】　・読み聞かせ、紙芝居づくり、凧つくり，MAP等	
◇事業名：父親の家庭教育参加促進のための講座	
【事業の目的】 父親の家庭教育参加を促すための講座を提供することにより、家庭教育についての啓発を図る。	【開催の場所や機会】 ・公民館や学校の余裕教室等 【講師】 ・お父さんたちのネットワーク会員、PTA役員等
【内容】　・父親の家庭教育参加を促すような事例発表や講話等	

地域活動支援の事例

○市町村協議会（事務局：市町村教委）

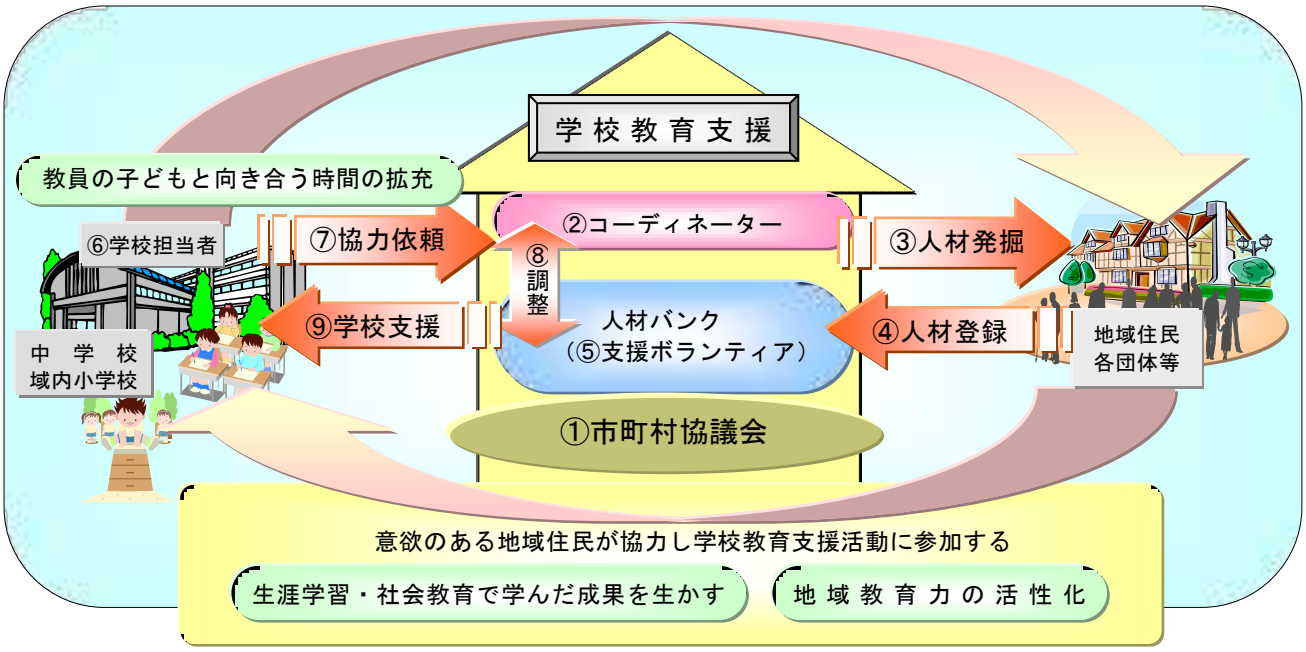


事業名　　異年齢集団遊び	主管する構成員(例) 育成会、ＰＴＡ、学校、(ジュニアリーダー)
事業の目的 放課後や土日に子どもたちに自由に過ごせる場を提供し、年齢にあった守れる約束ごとなどルールづくりを通して子どもたちは自主的に集団を運営し、異年齢間の様々な体験活動を通して、子どもたちを育む。	事業概要 活動名　　○○っ子活動 活動場所　公民館、地域交流館など 活動状況　放課後、土日
活動内容 ○○っ子活動では、遊びなど自由に過ごす。また、計画的に「ボールを使って遊ぼう～様々なボールを使って、いろいろな遊びをする。」「絵本の読み聞かせややいろいろな絵本の紹介等。	
事業名　　自然体験活動	主管する構成員(例)漁協、ＰＴＡ、(ジュニアリーダー)
事業の目的 子どもたちと地域の人々との交流を通して、海や山の自然にふれあいながら、普段みることができない磯や川辺に棲む様々な生き物を観察する。	事業の概要 活動名　　○○っ子自然体験活動 活動場所　地域の自然公園、自然の家等 活動状況　長期休業日
活動内容 野外活動、水性動植物や星の観察などの自然・環境学習活動、自然物を利用して工作活動、漁業体験など。	
事業名　冒険遊び場	主管する構成員(例)　ＮＰＯ、市民団体、(ジュニアリーダー)
事業の目的 子どもが「遊び」をつくる場です。火を使ったり、地面に穴を掘ったり、木に登ったり、何かものをつくったり、落ち葉やどろんこや自然の素材を使って、遊び場にあるスコップや金づちや大鍋を使って、「自分のやってみたいと思うこと」実現していく遊び場。	事業の概要 活動名　　○○冒険遊び場（プレイパーク） 活動場所　学校の校庭、地域の公園等 活動状況　土日、長期休業日
活動内容 水遊びや焚き火、木登り、物作り、ロープ遊び、基地づくり、キャンプ、清掃と食のイベント。	
事業名　　世代間交流活動	主管する構成員(例)　　育成会、ＰＴＡ、学校、地域
事業の目的 子どもたちと地域住民・高齢者の生活経験から昔の生活文化や働くことの意義などを学び、社会で自立していくために必要な「生きる力」を育てる。	事業の概要 活動名　　昔の遊びをしよう 活動場所　学校の校庭、体育館、公民館等 活動状況　土日、長期休業日
活動内容 昔の正月の生活体験（しめ縄づくり、昔の遊び、もちつき）	

<table>
<tr><td>事業名　　奉仕体験活動</td><td>主管する構成員　　地域事業所（土地改良区等）、学校、ＰＴＡ</td></tr>
<tr><td>事業の目的
　親子で一緒にボランティア活動し、親が子の、子が親の活動する姿を見ることで、お互いに新しい発見をし理解を深める。さまざまな分野で活動する親子を通して、ともに活動することが、お互いに学びあい成長する機会になる。</td><td>事業概要
　活動名　　水田を潤す川の上流部に豊かな森を育てよう。
　活動場所　地域の山、河川
　活動状況　土日、長期休業日</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動内容
　水田を潤す川の上流部に豊かな森を育てようと，親子がヤマモミジの苗木を植える。</td></tr>
<tr><td>事業名　　地域産業体験活動</td><td>主管する構成員　　農協、学校、地域</td></tr>
<tr><td>事業の目的
　地域に目を向けた地域に生きる人間の育成
　助け合い、勤労観を尊ぶ態度の育成
　地域における経済や流通の理解</td><td>事業の概要
　活動名　　農業体験
　活動場所　地域の田畑等
　活動状況　土日、長期休業日</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動内容
　田植え、稲刈り、収穫祭</td></tr>
<tr><td>事業名　　伝統芸能伝承活動</td><td>主管する構成員　　保存会、自治会、ＰＴＡ、学校</td></tr>
<tr><td>事業の目的
　地域に伝えられる伝統文化・伝統芸能を継承して貴重な文化財を次代に残す。そして、このことを通して地域に誇りと愛着をもたらし、子どもたちが地域に果たす役割を考えさせる。</td><td>事業の概要
　活動名　　伝統芸能の伝承
　活動場所　公民館、体育館
　活動状況　土日、長期休業日</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動内容
　〇〇流踊の伝統芸能の練習会、踊りの発表会,</td></tr>
<tr><td>事業名　　地域防災訓練</td><td>主管する構成員　　防災関係機関（消防署、自治会、防火婦人クラブ、学校）</td></tr>
<tr><td>事業の目的
　地域の住民、学校、防災関係機関及び市が連携することにより、地域の防災体制を確認するとともに防災教育の充実を図る。</td><td>事業の概要
　活動名　　地域防災訓練
　活動場所　校庭、体育館、公民館
　活動状況　土日、長期休業日</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動内容
　幼・保・小・中学校や自治会，婦人防火クラブなどが参加しての総合防災訓練。応急救護や地域住民とのバケツリレーなど消火活動を体験</td></tr>
<tr><td>事業名　　インリーダー研修</td><td>主管する構成員　市町村教委、育成会、学校、ジュニアリーダー</td></tr>
<tr><td>事業の目的
　子どもたちが、自主的に活動できるようにインリーダーを養成する。</td><td>事業の概要
　活動名　　〇〇地区インリーダー研修
　活動場所　公民館、市民センター
　活動状況　土日、長期休業日</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動内容
　子ども会プログラム作り、危険予知トレーニング、講話等</td></tr>
</table>

【学校教育支援の取組について】

１＜学校教育支援のしくみ＞



２＜構成と役割について＞

①【市町村協議会】……　学校教育支援の企画・運営，コーディネート，教育資源の発掘や人材バンク等の作成，コーディネーター・ボランティア養成及び研修会の開催を行う。

②【コーディネーター】……　事業実施において，学校とボランティアをコーディネートし学校支援を行う。また，ボランティアに対し指導・助言を行う。

③【 人 材 発 掘 】……　市町村協議会・コーディネーターが中心となり，地域住民で学校支援に協力できる知識や技能を有する人，協力できる団体・機関の発掘を行う。

④【 人 材 登 録 】……　多様な学校教育支援活動にできる地域住民や団体・機関を支援ボランティアとして人材バンク等に登録する。

⑤【支援ボランティア】……　学校教育において支援活動を行う。支援ボランティアは，特に資格を有する必要はなく，学校支援に意欲のある地域住民。ジュニアリーダー等の中学生・高校生も可能。

⑥【学校担当者（教員）】……　協働教育に関し学校内の調整を行う。学校支援の依頼内容をコーディネーターに伝えることや，支援活動等の連絡調整を行う。

⑦【 協 力 依 頼 】……　学校担当者が，学校教育の充実を図るために必要とする支援の協力依頼をコーディネーターに依頼する。

⑧【　調　整　】……　コーディネーターは，支援ボランティアをコーディネートする。また，学校支援活動が円滑に行われるよう，学校と支援ボランティアの双方の間に入り連絡調整を行う。

⑨【 学 校 支 援 】……　学校の求めに応じて，学校教育支援活動を行う。

学校教育支援活動の事例

<table>
<tr><td colspan="2">【学習支援活動】学校・授業者の意向を受け指導・指導補助を行う活動。ティーム・ティーチング（ＴＴ）として児童生徒のつまずきをケアする（補助者）活動，ゲストティーチャー（指導者）として授業の内容に関わる専門性の高いものなど幅広い活動が考えられる。</td></tr>
<tr><td>国語</td><td>書写，俳句・短歌，授業内の読み聞かせ　など</td></tr>
<tr><td>算数・数学</td><td>そろばん，ドリル学習の採点　など</td></tr>
<tr><td>理科</td><td>実験，草花観察，河川・地層見学　など</td></tr>
<tr><td>社会</td><td>戦争体験談，ゴミ分別，郷土・歴史　など</td></tr>
<tr><td>外国語活動・外国語</td><td>英会話，英語を使ったコミュニケーション　など</td></tr>
<tr><td>体育・保健体育</td><td>球技種目，武道，陸上競技，水泳，スキー　など</td></tr>
<tr><td>音楽</td><td>楽器演奏・合奏，合唱　など</td></tr>
<tr><td>図画工作，美術</td><td>水彩画，版画，工作物，木工　など</td></tr>
<tr><td>家庭，技術家庭</td><td>調理実習，郷土料理，ミシン，裁縫　など</td></tr>
<tr><td>総合的な学習の時間</td><td>米作り・野菜作り，農業体験，地域学習，体験活動，パソコン，伝統芸能，福祉学習，起業教育，職場体験　など
（年間を通じて行う活動は，学校とコーディネーター，ボランティアが綿密な計画のもとに実施する。）</td></tr>
<tr><td>生活</td><td>町たんけんの補助，野菜作り，昔の遊び，野山の活動　など</td></tr>
<tr><td>特別活動（学校行事以外）</td><td>小学校のクラブ活動，児童会活動・生徒会活動　など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【読み聞かせ】朝や昼休みなどに行われる読み聞かせ活動</td></tr>
<tr><td colspan="2">【部活動指導】部活動，練習試合等の補助　　など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【環境整備】
＜花壇整備・植木剪定等＞　校庭の草刈り，学校花壇の整備，植木の剪定，学校農園への作業補助
＜学校図書質の環境整備＞図書室の蔵書・ラベル整理，蔵書データベース化，図書室内の掲示物作成
など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【登下校安全指導】通学路におけるパトロール，安全指導　　など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【学校行事】学校行事の写真・ビデオ撮影，運動会等のテント設営や受付，行事の安全指導，賞状の筆耕，児童生徒の作品展示の手伝い
＜運動系＞運動会，球技大会，マラソン大会，水泳大会，
＜文化系＞文化祭，収穫祭，学習発表会，音楽祭，合唱コンクール，写生大会
＜その他＞卒業式，入学式，遠足，修学旅行，宿泊体験学習，登山，スキー，ボランティア活動　など</td></tr>
<tr><td colspan="2">【その他】校内安全巡回，特別な支援を要する子どもの補助　　など</td></tr>
</table>

※「指導」「指導補助」について

支援ボランティアは，主に授業者や子どもへの「指導補助」であるが，授業内容によって，授業者と共に指導者として「指導」を行う場合もある。

先進地研修視察報告

平成２４年度
大河原地区社会教育主事研究協議会　先進地研修視察報告

１　目　　的

生涯学習の充実が求められる今日，その先進地を視察することにより，管内の各市町における今後の生涯学習及び社会教育推進に役立てるとともに，社会教育主事としての資質の向上と豊かな発想力を培う。（今年度は，協働教育の家庭教育支援について先進的な取組を行っている名取市教育委員会を視察し，研鑽を深めることとした。）

２　期　　日

平成２４年９月２６日（水）

３　視 察 先

（１）名取市子育てサロンぽっぽはうす
　　所在地：イオンモール名取１Ｆイオンホール（名取市杜せきのした５－３－１）
（２）名取市教育委員会
　　所在地：名取市増田字柳田８０

４　内　　容

（１）視察「名取市子育てサロンぽっぽはうすの運営について」
　　講師：名取市教育委員会生涯学習課　社会教育指導員　中保良子 氏
　　名取市家庭教育支援チームぽっぽはうす　代表　松木浜子 氏
　　NPO 法人子育て応援団ひよこ　理事長　齋藤勇介 氏
（２）講話「名取市家庭教育支援推進事業について」
　　講師：名取市教育委員会生涯学習課　社会教育指導員　中保良子 氏

５　参 加 者

大河原地区社会教育主事研究協議会会員及び各市町家庭教育担当職員等　１８名

子育てサロンぽっぽはうす

６　概　　要

（１）子育てサロンぽっぽはうす＜午前：施設視察＞

名取市教育委員会生涯学習課社会教育指導員　中保良子氏，名取市家庭教育支援チーム代表　松木浜子氏，NPO 法人子育て応援団ひよこ理事長　齋藤勇介氏から，運営等について説明をいただいた。主な内容は次のとおりである。（右写真，左から順に，松木氏，中保氏，齋藤氏）

①設置・運営の目的

乳幼児期の子供を持つ親の仲間づくりの支援，親同士の情報交換の場や親子で遊べる場の提供，子育てに関する学習機会の提供及び相談等，随時リラックスした環境のもとで，子育てに関係する支援を行っている。また，様々な状況に応じた子育て支援機関の紹介等，各機関とのパイプ役を担うこともその一つである。

②活動期日・時間

子育てサロンぽっぽはうすは，名取市教育委員会家庭教育支援チームの活動の一環として，毎週水曜日にイオンモールにて開設している。時間は，午前１０時から午後４時までで，自由に出入りすることができる。保護者と子供がゆっくり過ごせるサロンの運営を心がけている。開催回数，時間の増加により，有効な支援活動ができるようになった。

※イオンモールでの開設は昨年度の９月であった。９～１０月は午前のみの開催として実施したが，利用者が多かったので１１月からは１６時までに延長した。

③参加人数

平成２３年９月～平成２４年３月（２０回）のデータですが，延べ人数で，保護者が１，３１９名，子供が１，４７６名である。1回当たりの参加組数は，平均７０組前後である。

④会場

教育委員会で借用申請を行って無償で借用している。企業と行政の連携という初めての取り組みなので，私たちはここイオンモールでの活動を大事にしていきたいと考えている。会場内の畳，敷物，遊具等はすべて持ち込みである。朝に設置し，午後４時に片付ける。

⑤活動内容

自由遊びをとおして，お母さんたち同士の交流，子供たち同士の交流がメインとなるが，その中に「ママタイム」というのを入れて，お母さんたちのリラックスタイムを設けている。

「地域の交流タイム」を設け，地元のコーラスサークルなどをお呼びして，ここで歌を披露していただいたり，わらべ歌をしていただいたりといった交流も行っている。

５月に「トークパーティー」を開催し，お母さんたちが子育てに関してどんなことを望んでいるのか，どんなことで困っているのかをグループに分かれて意見交換を行った。６月には，お母さんたちの企画で「風船 DE ワイワイゲーム大会」を開催した。９月には，ファミリーサポートセンターや NPO の児童センターの子育てに関する情報などを紹介する時間を設けた。

⑥その他

このサロンは，家庭教育支援推進事業の中の一つの取組であるが，情報収集や人のつながりという点で，ここの活動が市の子育て支援の大切な拠点になっている。震災後は，乳幼児保護者の「安全な交流の場」となった。また，企業・行政の連携による子育て支援の取り組みとして，今年２月に仙台市で開催された「第３回全国家庭教育支援研修協議会」においての事例発表や「月刊生涯学習」への記事掲載など，全国に発信されている。

NPO 法人「子育て応援団ひよこ」と連携を図っている。

駐車場が完備されているので，買い物ついでに近隣市町（仙台市，岩沼市，大河原町等）からの参加も見られる。

（２）名取市家庭教育支援推進事業について＜午後：講話＞

①挨拶（要旨）　名取市教育委員会　教育長　丸山春夫　氏

丸山春夫　氏

ようこそ名取市に。研修に名取市を選んでいただき誠にありがとうございます。

名取市の人口は約７万人ですが，昨年３月の大震災により９１１名の尊い人命が失われ，未だに８０名行方不明者がおり，約１，０００名の方々が津波の犠牲になりました。皆様をはじめ多くの方々に支援を頂き，何とか復興，復旧に向けて現在進行中であります。私たちは震災から多くのことを学びました。中でも人は一人では生きていけないんだろうなと。人と人とのつながりは，よく絆ともいわれますが，人は人と人とがつながって生きていくことを改めて思い知らされました。つながりは家庭の中のつながり，地域の中のつながり，職場の中でのつながりなど，色々あるわけですが，地域の中のつながり，これを推進していくのが社会教育の進む道だと痛感しました。

皆様方は社会教育に扱している方々であります。私も社会教育に携わるとともに，船岡生まれ船岡育ちということから，今後，皆様のますますの活躍によりまして，仙南の社会教育が推進されますことをご祈念申し上げまして挨拶といたします。

②講話：名取市家庭教育支援推進事業について

中保良子　氏

名取市教育委員会生涯学習課 社会教育指導員 中保良子 氏から，名取市の家庭教育支援推進事業について御講話をいただいた。

講義の内容（スライド及び趣旨）は次のとおりである。

名取市の家庭教育支援事業の推移

家庭教育支援総合推進事業
（平成１６年度～１９年度）

家庭教育に関する学習機会の提供や支援に関する人材育成を目的としたモデル事業として一定の効果が得られた。
親が参加する機会を活用した学習機会の提供を図ったが、子育てに無関心な親や悩み・不安を持つ孤立しがちな親へのきめ細かな支援や地域の環境整備が課題として残った。

(地域における)家庭教育支援基盤形成事業
（平成２０年度～２２年度）

地域において地道かつ持続的に決め細やかな家庭教育支援を行う体制を構築し、課題に対応していくため「家庭教育支援チーム」を設置し、「学習機会の提供」「情報提供」「相談対応」「親の自主的な学び」「父親の家庭教育参加促進」を中心とした活動を行い、支援を効果的に届ける努力を重ねている。

家庭教育支援推進事業
（平成２３年度～）

地域のつながりを密に支えあう子育て支援活動を実施。

2

平成１６年度からの家庭教育支援総合事業，平成２０年度からの家庭教育支援基盤形成事業は委託事業，平成２３年度からの家庭教育支援推進事業は市独自の事業として実施しています。

名取市家庭教育支援チーム ぽっぽはうす

保育サークル「ひよこ」の会員

子育ての経験を生かし、託児や学習会の活動を中心に、自然体の子育て支援を続けている
例）公民館講座の託児
　　保健センター乳幼児健診時の託児や絵本読み聞かせ

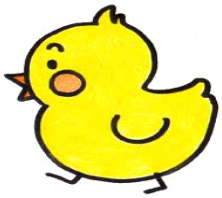
子育てサポーターリーダー
子育てサポーター
保育士
保健師
社会福祉課職員
生涯学習課職員

3

家庭教育支援チームは，「保育サークルひよこ」という託児を専門的に行っていたサークルが母体となり創設されました。後に「子育て応援団ひよこ」として法人格を取得しました。（詳しくは，スライド4～6を参照）

NPO法人子育て応援団ひよこ　誕生秘話

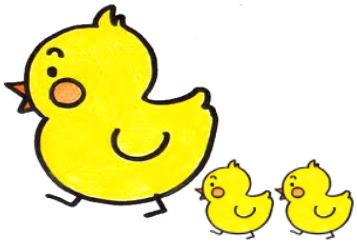
名取市
働く婦人の家
厚生労働省雇用均等・児童家庭局）の外郭団体として発足した女性労働協会の支援組織
働く女性の地位向上及び女性労働者の福祉の増進を図ることを目的とし事業を展開



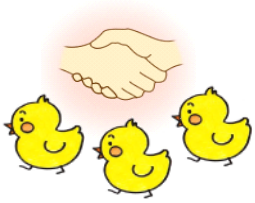
平成６年～
子育てサポーター養成講座開催
名取市働く婦人の家 主催
（生活経済部　商工水産課）
目的：働く婦人の家主催講座での**託児ボランティアの養成**

平成７年
保育サークル「ひよこ」設立
働く婦人の家のサークルとして活動
名取市内の子育てイベントや、公民館の講座での託児ボランティア
目的：子育て経験を活かし、身近なことから子育て支援をする

4

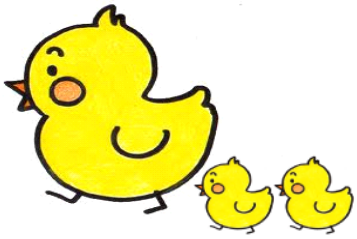


毎年度子育てサポーター養成講座修了生が保育サークル「ひよこ」の会員となり、活動を継続する下地ができた
この頃から、**保健センター乳幼児健診時に託児や絵本読み聞かせ**のボランティアを開始した



名取市ファミリーサポートセンター設立
（地域において育児や介護の援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織　健康福祉部社会福祉課管轄）
子育てサポーター養成講座は、ファミサポ協力会員養成講座へ切り替わる
ひよこの会員がファミリーサポートアドバイザーとして勤務

5



平成２０年～
地域における家庭教育基盤形成事業 委託
保育サークル「ひよこ」が、家庭教育支援チーム「ぽっぽはうす」として活動
社会福祉課、保健センター、子育て支援センター、教育委員会生涯学習課 が連携
乳幼児から小中学校の保護者へ支援

名取市那智が丘児童センターの指定管理へ向け、名取市より「ひよこ」へ事業委託及びＮＰＯ法人化への打診あり
平成２３年
地域で育む子育て環境実現を目的に「**ＮＰＯ法人子育て応援団ひよこ**」を設立
福祉・教育両面での事業を展開している

6

名取市家庭教育支援チーム「ぽっぽはうす」

【活動内容】
名取市家庭教育推進事業の実施協力
子育てサロン運営、公民館親子講座支援
小中学校家庭教育講座支援

連携

NPO法人「子育て応援団ひよこ」

【活動内容】
名取市那智が丘児童センター運営（名取市委託）
次世代育成事業等の実施　　相談対応
「ぽっぽはうす」への指導・支援
保健センター乳幼児健診時託児ボランティア

連携

福　祉

児童福祉・各種手当・支援制度　育児相談対応等

連携

保健センター

乳幼児健診、小児予防接種、健康相談、訪問指導

学校での家庭教育講座

市内１１の小学校で新入学保護者対象に「家庭教育講座」を開催。
市内小中学校で PTA 対象に「子育て親育ち講座」を開催。

子育てサロンぽっぽはうす

地域の子育て状況・問題点の収集や相談対応の為に定期的に増田児童センターや閖上働く婦人の家の託児室で開催。

地域・公民館との連携

地域の民生委員・主任児童委員や公民館と共催し、子育てサロンや家庭教育講座を開催。
下増田地区・愛島地区・相互台地区で開催。

家庭教育支援チームの活・動・紹・介

「親学習プログラム」の構築

親同士が交流しながら、子育ての悩みを解消したり、自分の問題点に気づくとともに、子育てについて必要な知識やスキル等を主体的に学ぶことのできる参加型の学習プログラムを構築し、市内小学校の PTA 行事や未就園児の講座に導入。

広報誌の発行・ホームページ開設

新入学児童の保護者対象に「新入学こころの準備マップ」を配布し、子育て情報を提供。未就園児の保護者対象に「子育てこころのマップ」を配布。

お父さんのための子育て教室

下増田公民館で父親の家庭教育参加促進を目的に父子のふれあいを深める講座を開催。
平成２２年９月２５日（土）に子ども読書活動推進事業と共催で父力アップ目的の絵本読み聞かせイベントを開催。

①子育てサロンぽっぽはうすの活動

→　支援チームの基本的な活動です。

②地域公民館との連携

→　市内の公民館で「子育てサロン」や「家庭教育講座」を開催している。地域の民生委員，主任児童委員に託児の手伝いをしてもらったり，芋煮会をしてもらったりしています。

③学校での家庭教育講座

→　小学校の新入学生の保護者を対象に，市内全小学校で家庭教育講座を実施している。新入学時の検診の時（１０～１１月）と２月の保護者会のどちらかに実施しています。内容は様々ですが，保護者の皆さんにわかってもらえるような簡単な新入学の紙芝居（入学した児童にありがちなエピソードを題材にしたもの）を作って，「もしお母さんだったらどうしますか？」という話をしながらアドバイスを与えるような講座をしています。

④お父さんのための子育て教室

→　平成２０～２２年度にかけて実施しましたが，参加者を募るのがなかなか難しかった。

⑤広報の発行・ホームページ開設

→　広報誌を発行しています。子育てこころのマップ，新入学準備のマップを作成しています。ホームページ http://www.city.natori.miyagi.jp/kosodate/poppohouse/

⑥親学習プログラムの構築

→　宮城県は作成中ですが，他の県で開発された親学習プログラムをお借りして，一昨年ぐらいから実施しています。グループワークをしながら一つのエピソードを参加者同士で話し合いながら，「自分が親だったらこれを乗り越える時どうするだろうか？」といった方法で，話し合いの中での気づきを大切にするプログラムを展開しています。

子育てサロン
「ぽっぽはうす」開催

親子が安心して集まれる場所を作りたい
いつものように普通に遊べる場所を作りたい
心がゆったりできる場所にしてあげたい

イオンモール名取で開催
地元企業との連携で活動拠点の確保
時間延長（10時～16時）で自分のペースで参加

成　果
定期的に開催することで利用者への浸透と定着が図られてきている
いろいろな地域からの参加者が増え交流が活発になっている
また、参加者の中には支援者の活動に協賛し、将来的に支援者として活動を望む声もでている

9

今，一番の成果は，私たちの活動に賛同して，将来的に支援者として活動してみたいとい声が出ていることです。最後まで残って，一生懸命片付けを手伝ってくれるお母さんがいます。「どうやったらこんな活動ができるようになるんですか？」と訪ねてくる方もいます。「もしよかったら一緒にやらない？できる範囲だけでいいから，よかったら一緒にやっていきましょう！」と声をかけています。ぽっぽはうすのメンバーも結構それなりの年代になってきていますので，やっぱり若いパワー，次世代の参加がほしいということで声をかけています。

10

子育て支援センターの保育士さんに指導いただいたことですが，「ベビー」と「キッズ」ではぜんぜん違うので，動線をきちんと分けるとともに，人の動きを把握する必要があるのでしっかり分けて活動しています。

子育てサロン
「ぽっぽはうす」の取り組み

続けてこその家庭教育支援

子供が生まれてから成長の段階に合わせた支援を続ける
子育てに切れ目なし！

地域とのつながりを深める（双方向支援）

地元サークルとの交流イベント開催
（コーラス・絵本読み聞かせ・わらべうた・昔話語り）
地域住民の有用感を引き出し、世代を越えた仲間作りを推進

サロンの中での部活動（目的のある活動に取り組む）

参加者の自主企画イベントを推進
自らが必要と感じる学びへの気づき
次世代支援者・リーダーの育成

サロンのスタッフ募集

次世代支援者の育成

11

保護者からは，子育ては「乳幼児は福祉課が，小学校になれば教育委員会になぜ変わるんだろう。」と言う声も聞かれるので，切れ目のない支援をしていきたいと思います。また，地元のサークルの方々，特にお年寄りと子供や若いお母さんとの交流（地域における世代間の交流）の機会を設けていきたいと思います。

12

次世代の育成を目指し，「サロンに来たときだけの部活動をしましょう」と提案し，お母さん達の企画・運営で「風船 DE ワイワイゲーム大会」を開催しました。これは，お母さん達自身の力でイベント等をやり遂げることを体験して欲しかったからです。こういう体験をすることで，将来，幼稚園や学校のＰＴＡなどで役立つのではないかと思ったからです。今後もサロンに来たときの部活動という形で継続できればいいと考えています。

公民館・地域連携
家庭教育講座の開催

市内１０公民館で開催
地元民生委員・主任児童員・公民館サークルとの連携
地域の子育て中の市民講師を招いての家庭教育講座を開催することで、子育てへの意欲を引き出すとともに、子育てをしながら自分のやりがいを見出す支援を行う
また、地域の家庭教育力の向上を図る

地域とのつながりを深める
民生委員・主任児童員共催の
子育てサロンや芋煮会開催
地元サークルとの交流会
（コーラス・絵本読み聞かせ
・わらべうた・昔話語り）

成　果
世代間交流が深まり、仲間作りが進んだ
新たに子育てサークルが立ち上がった

13

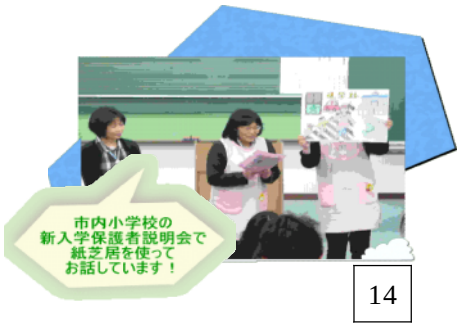
必ず年度初めに打合せをして，スケジュール調整と内容について，私たちがコーディネートしています。民生委員さん，主任児童員さんには必ず声がけをして連携を図っています。また，地元のわらべうたサークルの方々に講師になっていただいて，ぽっぽはうすと一緒に講座を開いたりしています。

学校連携
新入学家庭教育講座・子育て親育ち講座開催

小学校の健診時や入学説明会時に、入学に伴う保護者の様々な不安を軽減し、子どもの成長に伴う環境・身体の変化に対応し支えていくためのヒントを提供する講座を開催している
新環境へのソフトランディングを支援している
「新入学こころの準備マップ」を配布

成　果

学校側の協力を得られ全校で実施し、保護者アンケートからも成果を認められた
今後は、より短い時間での有効的な支援を検討していく



14

一番最初にこの講座をやろうとしたときには苦労がありました。学校のハードルは高いなと感じました。時間も運営も学校によって様々ですし，大きい学校・小さい学校によって人数も違いますし。１５～２０分ですが，それでも入れてくださいとお願いして始めました。保護者のアンケートには「やってもらって良かった」などの回答が多く，「これだけ成果がでていますよ」という報告を各校に伝えたら，「次年度もやってもらえますか」と言われ，今はだいぶ浸透してきました。

学校連携
家庭教育授業実施

増田小学校・増田中学校で実施
公民館・学校・地域の協働事業
家庭教育支援チーム・増田地区住民参加型親学習プログラム
震災後の心理的・環境的状況を反映

増田小学校	環境学習（地産地消による地域復興）　5年生 「グリーンコンシューマーになろう」
増田中学校	命の授業「いのちのバトンふれあい講座」 誕生（妊婦疑似体験）　3年生 死　（ターミナルケア）　3年生 モラルジレンマ　2年生 **一人一人の命の大切さを改めて見つめ直す** **未来の親となる思い** **身近な子育てや高齢者の看取りに視点をおく** **命のはかなさ大切さ、生きていることへの感謝**

15

震災後，これが一番の成果かなと思います。震災で，増田公民館が使えなくなり困っているときに，小中の校長先生が「うちの空き教室使っていいよ」と言ってくださって，最終的には，地域の

人たちが来ているんだから，なんか一緒に授業でもやってみてはどうだろう」と声をかけていただきました。命の授業「いのちのバトンふれあい講座」として実施したんですが，地域の方や支援チームの者が一人ずつ子供たちのグループに入って，ファシリテーターを務めました。また，ある市民団体を通じて東北大学の名誉教授が講師を引き受けてくださいました。先生方も子供たちのアンケートのまとめに１時間たっぷり時間をかけてくださったので，このアンケートは私たちの宝物になっています。

親学習プログラム構築と実践

親学習プログラムとは、親同士が交流しながら子育ての悩みを話し合ったり、**自分の子育ての問題点に気づくきっかけを与える**とともに、必要な知識や考え方を学べる**参加型のプログラム**である
子育てのマニュアル（教科書）を作ることが目的ではなく、**親自身が自分の「子育て」と向き合う時間を作ること**、同じ年齢の子供をもつ親同士がそれぞれの考えを話し合うことで**自らの問題点に気づいていくことが目的**である
平成２２年度から構築し、家庭教育講座や学校のＰＴＡ行事に導入している

望まれる成果
プログラムを構築し実践することで、親同士の交流が深まるとともに、主体的に家庭教育を考えるきっかけになる

16

親同士の交流ができますし，少なくともその時間は子育てに向き合うことができます。普段の生活の中でバァーっと時間が流れていく中で，ちょっと立ち止まって自分の子育てについて考える時間があるということは大事なことですよね。それが提供できているだけでもいいかなという感じで継続しています。宮城県でプログラムを作成中ですが，他県のホームページにアップされているので，是非活用してみてください。それから，小さい子供を持つ親だけでなく，中学校とか高校とかの子を持つ親も辛いときがありますね。だから，中学校のＰＴＡなどで，プログラムを介して悩みを吐き出せるようなプログラムがあればいいなと思います。

支援継続の課題の解決にむけて

ハードウェア

予算の確保
・行政の予算措置
・支援チームの活動が予算を生み出す仕組みづくり

例）消耗品、講座の講師謝金等最低限の活動費の予算を**行政側が確保**する

例）支援チームを市民団体として位置づけ、**講座運営を依頼し謝金を支払う**

活動拠点の確保
・活動拠点をどこに置くかによって活動の方向性が違ってくるとともに、チーム員の構成も変わるので、地域にあったスタイルを早期に確立する必要がある

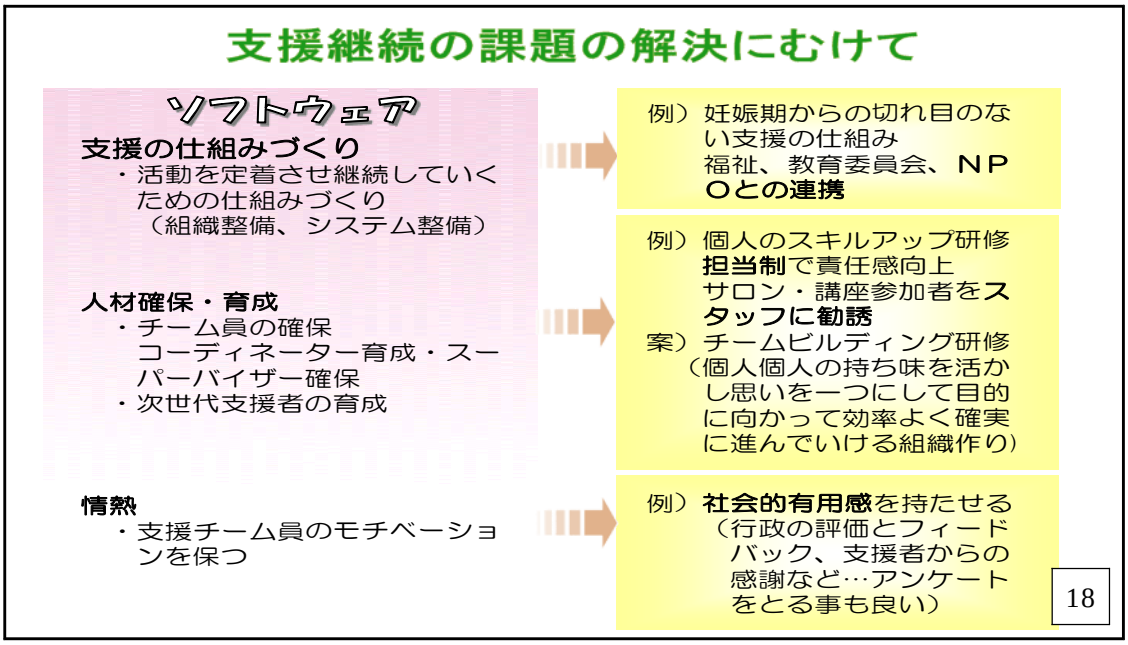
例）学校に拠点を置く場合はＰＴＡとの連携が近道
学校に充分な理解を促す

例）地域（公民館等）に拠点を置く場合は、**行政（教育・福祉）からのバックアップ**が必須

17

行政の予算措置はもちろんのことですが，支援チームが講座等の講師を受ける際に謝金等を得て，その後の活動資金とするシステムづくりが必要になると思います。名取市ではこのシステムが軌道に乗り始め，活動に必要な材料を購入する資金としており，チームはより充実した活動ができるようになりました。

活動拠点となる施設については，行政が無償で提供する支援が継続的に必要ではないでしょうか。



妊娠期から切れ目のない仕組みづくりが必要なので，福祉関係の課やＮＰＯとの連携を強化していくことが大切であると思います。また，チームが活動するためのチーム自体の人材を確保していく必要があると思います。

現在は，これがいいと思うもの（こと）を行い，参加者のアンケートをまとめるなどして事業評価を行っていますが，その活動は本当に効果があったのかということを評価する（評価してくれる）人，そしてチームの活動に対してアドバイスをしてくれるスーパーバイザーの確保が必要と考えています。また，子育てサポーターの研修では，子育てに関するサポーター自身のスキルアップの研修会は県主催などで開かれていますが，チームとして活動を続けていくための運営に関する研修会やチームビルディングに関する研修会がないので，支援チームの組織力を高めるための研鑽を積んでいく必要があると感じています。

大河原地区社会教育主事研究協議会　先進地研修視察事前質問についての回答

	質　問	回　答
行政上の役割・連携	首長部局（子育て支援センター等）との事業の住み分け・役割分担（責任者も含めて）・事業の連携はどのようにしているのか。	首長部局（福祉・子育て支援センター）の行っている子育ての為の環境整備・交流・相談以外にも子育て地域環境づくりや情報提供，親自身の学びを促し育てるという重点目標がある。子育てネットワーク委員会で情報・意見交換を行っている。年１回子育てイベントを開催している。
	NPO・企業・子育てサポーター等の連携はどのようになっているのか。	家庭教育支援チーム員が県主催の子育てサポーター・サポーターリーダー養成講座を受講。NPO からは子育てサロン運営協力・指導・公民館講座託児の支援を受けている。企業（イオンモール名取）から子育てサロンの開催場所の無償提供を受けている。
	行政の視点から，子育て支援と家庭教育の考え方，捉え方はどのように考えているか。	子育て支援：福祉・保健・労働条件を整備するとともに親子ふれあい交流行事の推進，相談対応を行う。地域課題の解決。 家庭教育支援：親育ちを援助する教育の提供，親の学習機会の充実，子育てを支援する地域づくりを行う。地域教育力の向上に努める。子育ての知識の教授，親同士が子育てを語り合う経験交流の場をつくる。子育てを支え合う人間関係を生み出す。地域で子育てを温かく見守る関係づくり。
	現在の家庭教育のスタイルに至る経緯や苦労・困難だったこと等について。	家庭教育基盤形成事業の委託により家庭教育支援チームが発足したことや市内公民館との連携で系統的な活動ができるようになった。以前の単発でやりっぱなしの講座ではなく必要課題に添って地域の教育力を引き出す内容の事業（地元サークルや民児協との交流を深める事業）を展開できるようになった。企画運営面で行政が望む活動とチーム員がやりたい活動にズレが生じるケースもあり，納得できるまで話し合った。
	名取市の家庭教育に関する現在の課題，重点努力事項，あるいは今後に向けた家庭教育支援の方向性はどのように考えているか。	スーパーバイザー不在やコーディネーターの力不足で，活動の成果の検証が不十分である。今後は，地域との連携（民児協，サークル，各種団体，企業を巻き込んだ活動）を密にし，相互支援を行っていく。親自身の学びと気づきを引き出す親学習プログラムの内容充実と次世代支援者の育成。
	子育て応援団ひよこが NPO になったことで変化したことは何か。	事業のコーディネート力が向上した。他の部署（福祉，保健センター，児童センター，保育所等）とのインターフェース（つなぎ）の役割を担ってくれている。
家庭教育支援チーム	支援チームの構成，事業の運営等について。	基盤形成事業委託期間は，福祉・保健・保育所職員も支援チーム員として意見交換していたが，現在はケースに合わせてアドバイスや協力を受けるのみ。事業の企画は行政主導だが，講座・サロンの運営は支援チーム主導。
	支援チームのメンバー（民生児童員等）はどのような基準で選んだのか。	すでにサークルとして活動している実績とチームとしてのまとまり・情報伝達等の利点を考えた。
	支援チームと子育てセンター，児童館，子育てサークル等との関係及び連携は。	子育てサロン開催にむけての事前研修は保育所子育て支援担当保育士より指導を受けた。サロン開催場所として増田児童センターの遊戯室（午前中）を借用した。子育てサークルの新たな仲間づくりのための講座を公民館で実施し，サークル活動継続の支援を行っている。
	共働きの親に対する講座は行っているか。	実施していない。

	質問	回答
家庭教育支援チーム	地域や公民館との連携はどのように行っているのか。また，連携事業について，参加者の反応がよかったものは。また，講座等終了後の参加者の活動で特徴的なものがあれば紹介してほしい。	市内ほぼ全公民館で家庭教育講座を実施（年度当初に調整会議を開催）し地域の民児協や地元サークルと連携している。講座の託児協力，季節イベント，コーラスサークルコンサート，交通安全教室，わらべ歌の会など，地域との交流を深めている。民児協による芋煮会やコーラスサークルのクリスマスコンサートは，双方から喜ばれている。また親子ヨガは，講座終了後すぐにサークルに移行した。漠然と育児サークルを立ち上げるよりも目的のはっきりしたサークル活動を好む傾向にある。
	これから家族を持つ世代に対する支援はあるか。(プレママ，プレパパ講座等)	５年前に「子育て未来予想図セミナー」という子育て３世代（未来，真っ最中，一段落）を対象にした講座を開催したが，未来の世代は受講生が集まらず中止になった。今後取り組む必要は感じているが未定。
	父親対象の講座実施状況と参加者数について。	今年度一つの公民館で実施予定（11，12月）。子供と一緒のおもちゃ作りや遊びイベントには夫婦一緒の参加が多いが，父親の学びの為の家庭教育講座への参加は少ない。
	新入学小学生の親を対象にした講座を開いているか。実施している場合，その内容や方法はどのように行っているのか。	市内全小学校で新入学家庭教育講座を実施している。 内容：〇紙芝居　・１年生のエピソード紹介とアドバイス 〇講話　・自立・ヘルプとサポートの違い等 〇親学習プログラム ・ほめ方叱り方，子どものけんかに親が出る？ ・子どものいい所を伸ばそう （１学年ＰＴＡ行事で親学習プログラムを実施）
ぽっぽはうすの運営	事業実施前に，既存サークル・首長部局等とどのような打合せを行ってきたか。(①立ち上げに向けて，②施設の使用について［イオンとの話し合い，使用料金について］)	①事前研修の内容・指導に関して増田保育所子育て支援センターより支援を受ける。立ち上げ時の開催場所を増田児童センターより借用。 ②青少年健全育成会の大型施設巡回活動でイオンモール名取とのつながりがあった。サロンの拠点としてイオンホールの無料借用をお願いしたところ快諾。イベントのない日であれば借用可能。教育長名で借用申請書を提出。
	運営に当たっての人件費，材料費等は一般財源で支出しているのか。	公民館や新入学家庭教育講座での活動には団体へ講師謝金支払。子育てサロンは無償。活動に係る消耗品や印刷費は家庭教育推進事業の予算より支出。
	スタッフの確保はどのように行っているか。（行ってきたか)	現在21名で活動しているが，スタッフ不足の場合はファミリーサポートセンターの協力会員にお願いする。子育てサロン参加者に，スタッフとしての活動参加を呼びかけて次世代支援者を育成。
	行政の関わり。（ぽっぽはうす開催日は毎回スタッフとして動いているか)	基本的に自主運営。借用申請や対外的事務手続きとともに，季節イベントやミニ家庭教育講座のコーディネート・調整を行っている。
	サロン型交流による家庭教育推進のメリットについて。	支援のすそ野が広がった。サロンの中に家庭教育講座を組み込んでいくことで，親子の状況に合わせたゆったりした雰囲気の中で実施でき，支援活動の持続につながっている。地域活動（サークルや各種団体）の発表の受け皿としても活用。多世代交流の場になっている。
子サ	子育てサポーターの人数と男性の有無について。	25名程度，男性無し。

研修委員による座談会

平成２４年度
大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会　座談会要項

１　期　　日　　平成２４年１１月１４日（水）１３：３０～１６：００

２　場　　所　　大河原合同庁舎　第二会議室

３　テ ー マ　　協働教育推進へのアプローチ

４　次　　第

（1）開　　会　　研修委員長　　冨田　丈靖

（2）開会あいさつ　　協議会長　　小室　徹彦

（3）座　談　会

（4）閉　　会　　研修委員長　　冨田　丈靖

５　出 席 者

市町等の名称	参加者名
白石市教育委員会	小　室　徹　彦
角田市教育委員会	大　内　克　典
蔵王町教育委員会	玉　手　美　絵
七ヶ宿町教育委員会	髙　橋　　陸
大河原町教育委員会	小　野　　宏
村田町教育委員会	鎌　田　浩　孝
柴田町教育委員会	後　藤　忠　宏
川崎町教育委員会	冨　田　丈　靖
丸森町教育委員会	荒　井　優　作
仙南広域行政事務組合教育委員会	黒　澤　　良
大河原教育事務所	加　藤　敏　充

座　　談　　会

冨田：本日は座談会ということで，社会教育主事研究協議会，研修委員の皆さまにお集まり頂きました。開会にあたりまして，大河原地区社会教育主事研究協議会，小室会長から開会のあいさつをお願いします。

小室：みなさんこんにちは。本日は社会教育主事研究協議会の研修委員会の座談会に，お集まりを頂きありがとうございます。ご存じのとおり大河原地区社会教育主事研究協議会の研修委員会では，管内の社会教育・生涯学習についての事業や課題について調査・研究をし，毎年テーマを決めまして研修報告書を作成しています。今年度は「協働教育推進へのアプローチ ～各市町の実践から見えたもの～」ということで研修を進めています。研修につきましては，これまで進めてきた学社連携・学社融合というところから協働教育について研修をしているところであります。本日は座談会ということで，各市町の研修委員の方々から色々な情報などを，ざっくばらんに話し合いを進めていただければと考えております。よろしくお願いします。本日は大変ご苦労様です。

冨田：ありがとうございました。それでは早速座談会に入りたいと思います。本日のテーマは「協働教育推進へのアプローチ」ということで，皆さんのところで現在取り組んでいる協働教育事業に関すること，日頃の活動から何か感じていること，事業をしているうえで苦労している話など，なんでも結構ですので，自由に気軽にいろいろだしていただければと思います。それではよろしくお願いします。

鎌田：では，最初に村田町の協働教育の取組についてお話をしたいと思います。私の記憶では，平成１７年度から「協働教育」という言葉が頻繁に使われるようになったように思います。村田町では，その推進を図るため，平成１９年度から２年間，宮城県の委託事業であるコラボスクール推進事業に取り組んだのが最初の取組です。

この事業は，地域の力を活用することでさらなる学校教育の充実を図り，また，地域の方々も学校と関わることで生涯学習機会の場とすることを目的としました。事業は，町内の小学校からモデル校を１校指定し，スムーズな活動が行えるよう，組織を作り，地区公民館長，学校ボランティア，学校の先生，それから社会教育職員を入れ，「地域」「学校」「行政（社会教育）」の三者連携で事業に取り組みました。農業学習や昔遊びなど，地域の方々が直接指導することで，より内容の濃い学習や地域の方々との触れ合いなど子供たちにとって，よりよい活動につながりました。また，

組織を作ったことで，それぞれの考えや思いを知る良いきっかけになりました。
委託期間の２年を終え，大変充実した内容で取組むことができたコラボスクール事業を全町的にできないかと模索し，学校地域支援本部事業に目をつけ，取り組むことにしました。この事業は，国の３年間の委託事業で，学校教育の充実，地域の方々の生涯学習機会の拡充，子供たちの豊かな心の育みを目的とし，さらには，学校を拠点とした明るく元気な活力ある地域づくりを目標とし取り組みました。また，事業母体となる組織についても継続性を視野に入れ，支援活動全体を支える支援協議会と事業推進を図る推進委員会を中学校区ごとに設置しました。学校には，事業の窓口役として学校の協力を得て，協働教育担当者を配置し，常に学校と連携がとれる体制も整えました。平成２３年度からは，新たに協働教育プラットフォーム事業ということで，従来の学校教育支援に家庭教育支援，地域活動支援をプラスし，学校・家庭・地域の連携，協働による子供を育む体制づくりを目標とし，現在事業に取り組んでいるところです。事業に取り組む際，地域の力を活用した事業ということで地域の方々から理解が得られるのかというところ，学校でも授業に対して積極的に活用してもらえるのかというところが大きな心配でした。そのため，学校には何度か足を運び趣旨を直接説明し理解をいただけました。また，地域の方々にも，いろいろな機会にお話させていただき協力をいただけることになりました。最初はお互いに，気遣いなどがあったようでしたが，いざ入ってみると，学校は，充実した学習活動や環境整備がとても助かっていますとか，地域の方々は，学校に来て子供たちから元気もらったとか，役に立ててうれしいというような前向きな感想が多くあり，取り組んでとても良かったと思っています。特に地域の方々については，私たちが思っているより，何かやりたいとか，なにか子供たちのために活動したいという思いを持っているんだなと感じました。その気持ちを上手に社会教育や生涯学習にコーディネートというか，つなげるのが我々の仕事で，今とても大事なことではないのかなと思っています。

後藤：自分も学校教育と社会教育の双方に携わった立場ですが，今，鎌田さんがおっしゃったように，社会教育の現場に出てみて，本当に地域の中にも学校のことや子供たちの事を考えて，いろいろ頑張って活動している方々がたくさんいらっしゃることを知りました。また，行政の方々も町のためや住民のためにと熱い思いを持ち，教育活動に携わっている方がたくさんいらっしゃることにも気付きました。学校支援でも実際ボランティアさんが入るまではなかなか苦労するのですが，実際やってみた方の充実感は格別なようで，そういった方を一人でも二人でも増やしていくことが，この事業の意味のあるところなのではないかと思います。
この事業は学校教育をより充実させるとか，学校の先生方の業務を楽にするとか，そういった視点だけではなくて，やっぱり自分は社会教育の立場という意味では，地域住民の生きがいややりがいにつながる，その為に学校も一緒にパートナーシップを意識して，お互いにプラスになるように事業に取り組むことが大事だとつくづく感じております。

小室：白石市では学校教育支援については遅れていると思います。やはり一番ネックになっているのは学校との接点というかつながりが難しいなというのがあります。なかなか学校の中にも入っ

ていけないということもありまして，行政の人たちが入っていくのは難しいと思います。それで協働教育担当者を学校の方にお願いして，窓口になって頂いて進めようとしています。今回，コーディネーターに学校の先生を退職された方にお願いし進めています。つながりをつくっていかないと難しいのかなと一番思っています。学校の先生方の中には全く，協働教育って聞いたことがないというような先生も多いです。そういうところにどうアプローチしていくのか問われているし，求められているのかなということです。今後少しずつでも進めていかなくてはならないし，連携していかなくてはならないと思っているところです。

冨田：うちの町の学習発表会のケースですが，学校で踊りやの太鼓などの郷土芸能をやりたいということで，こちらから地域の方を紹介します。その方も最初は学校に行くのを渋っているんですが，いざ行き始めると学校に行くのが楽しみになってきて，教えていくうちに子供たちとすごく仲良くなり，それを機に学習発表会を見に行ったという話を聞きます。地域の方々でも学校とのつながりがなかった人が，活動をとおして学校に行きやすくなる人っているのかなと思っています。活動が社会的に認められていることがボランティアさんのうれしさだったりするのかなっていうところはあるんですね。ただ，せっかく登録して協力したいっていう人はいるんですが，実際学校から声がかかってくる人は馴染みのある人に固定化されてきていて，その人にたのみやすくなってしまう傾向があるのかなということを思っているところです。逆に皆さんのところで，そういう人たちが活躍できる場とか，何かいいのありますかね。

鎌田：村田町でも，ボランティアの人数は増加して大変喜ばしいことなんですが，実際に活動につながっていない方々がいるというのが現状で，一つの課題だと思っております。そのため，ボランティアの方々の活動の機会を少しでも確保するため，ボランティア研修会を年１回開催しています。また，他の事業へ参加案内を行ったりしています。せっかく何かやりたい，役立ちたいという積極的な気持ちで登録いただいたので，何とか活動意欲を保てるようなことをしなければと思っています。今のところはそのような対応をしている状況になっています。

玉手：蔵王町では平成２０年度から学校支援について力を入れ，人材バンクの見直しやボランティア登録など現在のスタイルを整え，学校のニーズに対応してきました。最近では，川崎町と同様にボランティアの方の固定化が多くなったように感じています。やはり，新しく参加したい方がすでに活動されている中に入っていくのは，難しい環境なのかなとも思います。村田町のように登録しているボランティア向けに研修会を実施できるといいのですが，現在は図書整備ボランティア向けの研修会を実施するにとどまっています。

大内：角田市も白石市と同様に，当プラットフォーム事業の学校支援についてはちょっと出遅れている感があるんですけれども，角田市内は９つの地区がありまして，それぞれが子ども会育成会や地区振興協議会等とつながりがあるところなど，いろんなつながりがあり，学校での居場所づくりを地域で続けている地区もあります。お孫さんもいるようなおじいちゃん，おばあちゃんが子供たちとの遊びを通してふれあっているため，学校にすんなり入っていけるんですね。それが今後，

違う形を学校側と模索しながら様々な支援をしていければいいなと思っているんです。そこで考えているのが，自治センターを拠点にいろいろな活動をしている地域の団体が持っている情報を，公民館（自治センター）という場所を介して，学校側に発信していければと思っております。ただ，それだけだと公民館だけに負担がかかってしまうので，学校と地域をつないでいる公民館がクッション役となり，学校と団体が直接連携できればうまくいくのではと考えております。角田市では，皆さまのところでやられている形とは違う方法で進もうとしているんですが。その既にある団体をうまく利用しながら根を広げていきたいなということを考えているところです。

髙橋：七ヶ宿町の学校は，ずいぶん前から地域の方に来てもらうイベントを小学校で開いたり，運動会を地域と合同でやったり，地域と結構つながりが強かったので，結構最初の方は入りやすかった状態だったと思います。今は高齢者の方が活発に活動なさっているので，そういう人たちの中からボランティアになれるような人をピックアップして，学校にこういう人もいますよとお知らせをして，地域の人を学校の中に呼んでもらおうかなと考えています。みなさんにお聞きしたいのですが，七ヶ宿町では小学校での活動は活発に行われているのですが，中学校ではあまり行われていません。中学校ではどんな活動をされているか聞いてみたいです。

冨田：私の町でも学校教育支援について，小学校での活動が多い傾向にあります。中学校の活動としては，開校記念日の講師として地域の方を招き，ＯＢの方が昔はこういう学生生活をおくっていたとか，戦争体験したときの話をするなどの活動はあるようです。また部活動支援ということで，柔道・剣道をやっている地域の方に指導してもらっています。それも学校の時間帯と地域の方の時間帯がうまくリンクできれば，そういう活動も実現できると思います。

鎌田：村田町の中学校の支援活動についてですが，登下校の安全指導や部活動支援，総合学習支援，学校庭園やマラソンコースの環境整備などを支援していただいています。
活動の中で，特にすごいなと思った支援活動は，総合学習で郷土芸能の学習に取り組んでもらっていることです。現在，郷土芸能も若者が地域から離れるなど後継者を確保することが難しくなっている状況にあります。そこで，学校として，ふるさと学習はもちろんのこと，今のうちから，郷土芸能に触れる機会をつくり，伝承するという気運を高めることが出来れば良いのではないかとお話をいただいたことがありました。現在，総合学習で郷土芸能を学習し，その成果を文化祭の時に披露しているというような活動になっています。学校が受け皿となる活動なのですが，逆に学校からの提案で，地域活動の貢献につながっていることは大変素晴らしいことだと思います。

後藤：わが町も中学校の支援だと部活動支援にご協力いただいています。それから中学校は教科担任制ですが，学習支援の実践事例もあり，例えば今年たまたま日食があったので，宇宙センターの専門家の方が学校支援ボランティアとして，理科の授業に学習支援として入っていただきました。他にも音楽の和楽器（箏）指導や技術，学習畑の栽培指導にもご協力いただきました。あとは中学校のニーズとしては，キャリア教育や職場体験という部分は行政や地域の力を借りないとむしろ

できない事なので，その辺は切り口になるのではと思います。

小室：白石市でも職場体験の場所を探してほしいという依頼があり，コーディネーターがいろいろな企業に出向き話をして了承を得ています。そこで，受け入れてくれる事業所を一覧表にまとめて学校に情報を提供しています。それで今も大丈夫なのか連絡を取りチェックしています。中学校では職場体験の事業所の要望が一番高いみたいです。やはり中学校の先生方にアンケートを取っても職場体験の要望が多かったようです。

後藤：たいてい学校は，毎年職場体験学習の担当者が変わります。３年に１回，実施する学年を受け持った先生（学年主任を中心に）が担当するケースが多いと思います。その学年でその年の体験学習が終わると，受入事業所のリスト等の資料を次の学年に引き継ぎますが，数年さかのぼっての流れや一つ一つの事業所との細かい部分までは十分な引継は難しいのが実状だと思います。
今回，教育委員会が窓口となって３中学校分一括して事業所に受け入れを依頼したのですが，事業所にとっても町内だけではなく，他の町，高校，大学など，いろいろなところから依頼がくるので，町として一本化して依頼がきたのはよかったというお話をいただきました。
事務作業の効率化だけではなく，ねらいとしては，地域の住民や企業の方も，地域の学校や子供たちに関心を持ってもらい，学校単独ではなく町全体として組織的に取り組むという意識を高めることがこの活動を安定的・継続的に続けるポイントになると思います。来年は学校の担当者と行政の担当者と事業所の担当者でのミーティングを開きたいと思っているところです。

小野：うちの町でも平成１５年から職場体験をやっていますが，その時々でいろいろな要望がありまして，以前いらした派遣社会教育主事の方が中心となり，「学習支援施設マップ」と「学習支援施設マップ学習活用ガイド」を作成しました。そのガイド等を活用して実施している「職場体験」ですが，事業所数は以前町内外を併せて１００件を超えておりましたが，現在は約８０件になっております。その事業所の日程を調整し，学校からの希望が叶うように直接交渉しています。現在は，社会教育指導員の先生が担当し，学校との連絡・調整を行っております。先ほど中学校関係の活動がありましたが，大河原町では「子育て理解講座」というものを実施しています。子育てサークルの方や保育士さん等に講師をお願いし，妊婦体験としてマタニティーの格好をしたり，託児体験などで沐浴を行ったりしています。中学２年生で希望する職場を体験し，中学３年生で子育てについて勉強することは，将来の人格形成に役立つものであり，職場体験の目的である職業観を磨き，社会の基本的なマナーや礼儀等を身につけ，自分の生き方について考えることや，子育て理解講座の目的である保育所等での幼児とのふれあいを通して幼児の遊びや心身の発達と生活習慣の重要性など幼児の理解を深めること等それぞれの事業目的が達成されており，学校からは好評な事業となっています。

玉手：大河原町と同様に，町内の中学校２年生が「職場体験学習」を実施するにあたり，事業所への依頼を生涯学習課で取りまとめをし，多くの事業所で生徒の受け入れをしていただきました。
蔵王町では職場体験の事前学習として「マナー講座」や「蔵王町の産業と観光」について学習を行

います。マナー講座は，地元旅館やホテルの職員から，あいさつや身だしなみについて直接指導を受けることができる貴重な機会になっています。また，遠刈田中学校では生徒から文化祭で太鼓を披露したい，という要望があり，以前遠刈田小学校で教員をされていて，「遠刈田太鼓」という子ども伝承芸能団体を指導されていた先生をお招きし，練習を重ね無事に文化祭で披露することができました。

加藤：事務所の社会教育主事として管内の協働教育の状況を見ていると，確かに小学校のニーズが多いのかなと感じています。しかし，中学校にもニーズは結構あると思います。教科指導においては，確かに小学校に比べればやや難しいと思いますが，部活動の支援，キャリア教育での講話や職場体験等は，中学校にとって比較的展開しやすいものと思われますし，生徒にとっても直接的な学びにつながるものと思います。特に職場体験については，後藤さんが話したとおり，学校・事業所・生涯学習課が協働教育の考えの基に一体になったときにこそ，町全体で，地域で我が町の中学生を育てましょうという意識が高まり，意義のある事業になるのではないかと思います。そのためにも，事務所としても，もっともっと学校や教員に協働教育の良さをアピールしていかなければならないと感じています。部活動や職場体験をきっかけに，教科指導の場面でも，小学校で実践されている書道の支援や家庭科の調理実習，裁縫などの支援でボランティアさんに入っていただければ，中学校でも広がりがあると思います。

大内：中学生の職場体験で，受け入れてくれた事業所が自分たちも子供たちの教育に関わっているんだという意識をもってもらいたということから，中学校の職場体験を通して，協力してくださった事業所に，職場体験を受け入れた，受け入れていますということを示すステッカーを作って配ってもらいました。事業所としてそれを活用してくれるかどうかは別ですけれども，本当にただのステッカーなので，どこまで力があるのかわかりませんが，そういったところから協働教育に関わる人が増えるきっかけになればと思っているんです。

冨田：ありがとうございます。学校教育支援について，だいぶ皆さんお考えをきくことができたので，このあたりで，学校教育支援以外のことで，何かお話しいただけませんか。

小野：もともと行政も地域も学校には何かで関わっており，これをやりたいとか，こういう人がいないかなど人材や道具等を探すところからつながりの多くは始まっているように思います。連携・融合・協働。言葉は変わっても，いずれも地域の人々の協力をもらいながら，地域に浸透していくように実施していく。携わる人たちにとって生きがいや楽しみになり，段々と輪が広がっていく。更に，地域コミュニティの構築というところまでつながっていけば理想かなという思いは，どこの市町等も同じだと思います。

鎌田：月並みの言葉なのですが，事業をやることだけが目的ではない，別な目標があって，それを達成するための手段であることを意識することが大切だと思います。この事業もそれぞれ自分たちだけでは目的を達成することは難しいところはあるのですが，学校，社会教育・生涯学習，地域の方も役割分担をしてみんなで協力することで道が開けてくるのではないでしょうか。みんなで，共通認識を持ち，同じ方向に進んでいくことで，自然と地域コミュニティや地域に活力が生まれるなど，大きな可能性を秘めているのが，今取り組んでいるプラットフォーム事業なのかと思います。

小室：この間もネットワーク会議があって，ＮＰＯとか企業でも，いろんな形で社会貢献をしています。その中で協働教育のみやぎ応援団に参加し，いろんな場所やいろんな学校に行ってお手伝いをする団体が多くなってきています。企業やＮＰＯの人たちは，それなりのプロの人たちだから，子供にとってもいい話や，いい体験ができるのではないかと思っています。今後そういう人たちと連携を図りながら進めていけばいいのかなと思っています。学校，家庭，地域，行政，そして企業やＮＰＯを含めてネットワークを作って，子供たちのために進めていけば，よりよい協働教育ができるのではないかと思っています。

冨田：ありがとうございます。最後に私たちが目指すべき取り組みや，これからこうしていきたいという思いを皆さんに一言ずつ話していただけませんか。

小野：家庭であれ，学校であれ，地域であれ，やはり目指すところは子供たちを健全に育てるために事業を展開していくことにより，人やモノを有機的に繋げ，地域の人たちの楽しみや生きがいが生まれ，そして地域のコミュニティづくりにも貢献できればいいのではと思います。

鎌田：村田町の協働教育プラットフォーム事業に関して言えば，学校教育支援の方はある程度レールに乗ってきているので，継続性を大切にしつつ発展していければ良いなと思っています。家庭教育支援，地域活動支援については，これから関係機関や団体，地域方々と連携を図りながら充実も目指していきたいと思っています。事業にうまく取り組みながら，最終的には協働教育の理念であります，地域全体で子供を育むような体制づくりに結び付けていければと思っています。

髙橋：七ヶ宿町の学校教育では，もっと学校とコミュニケーションをとって，地域の人たちが活動できるよう活躍の場をつくっていきたいと思います。家庭教育ではこれまでなかなか事業ができていなかったので，なんとかＰＴＡ，学校と連携をとって，親の方々への研修を開けたらいいなと考えています。あと，地域活動については，人材育成や地域づくりにつながる講座や講演などを積極的に行い地域の教育力を高めていきたいと思います。今後このような取り組みを実施し，家庭，地域，学校の３つの柱を全体的に強化できるようにやっていきたいなと思います。

玉手：蔵王町では今年度に引き続き，家庭教育支援に力を入れていきたいです。今年度手ごたえがあった「家庭教育講座」については，さらに充実させられるように内容だけでなく，配付する資料についても工夫したいと思います。また，親子で向き合う機会をつくってもらうきっかけとして，

家庭教育紙芝居「できるかな？」を活用していきたいです。地域活動支援についても保護者の協力や理解が必要になってくるので，地域のみなさん，ボランティア，子供たちも巻き込んで，連携・協力できる体制を作りながら，進めていきたいと思います。

大内：これまでにできた学校と地域団体とのつながりを大切にしながらも，さらに様々な支援を行える仕組みができればと思っています。そこから家庭教育支援チームの活動とうまくつなげていく方法を模索しながら，進めていかなければならないと思っています。地域活動支援ではジュニア・リーダーの人数を増やしながら，いろんな活動に対応できるようしていきたいと考えています。家庭教育支援と学校教育支援，地域活動支援が，それぞれうまくかみ合うように仕組みづくりをしていきたいと考えているところです。

荒井：今，協働教育関係なんですけど，学校と家庭と地域と，どう連携していくかという体制づくりも大事だと思うんですけど，連携していく中で，講座とかを開くときに指導していく人材を育成していくという点が大事だと考えています。また育成したり発掘した人材を有効に活用するためにも，うまく情報を発信していくことも大事だと考えているところです。

小室：協働教育の推進のために，白石市としては家庭，地域，学校，行政，そして企業やＮＰＯも含めた形で連携をとって，子供たちの教育のために進めていきたいと思います。やはり地域全体で子供を育てる，更にそれによって地域の活性化を図っていくということを目標に進めていきたいと考えています。特に白石市では学校教育支援が遅れているので，やはり学校との連携が一番かなと思っているところです。そういった意味で，今後，学校支援ボランティアの育成及び協働教育の担当者会議や研修会などを開きながら，学校教育支援に力を入れて進めていきたいと思います。家庭教育支援は，子育て支援センターを中心に現在事業を進めていますので，そちらと連携を図りながら取り組んでいこうと考えています。地域活動支援については，現在行っているわんぱく教室，子ども会の事業やジュニア・リーダー活動の活性化を支援しながら，よりよい協働教育の推進に向けて取り組んでいきたいと思います。

後藤：皆さんからもあったように，あくまでも協働は目的ではなく手段であるというところをしっかり押さえ，学校，家庭，地域のニーズを把握しながら，子供を育てる環境づくり，そして，それ以上に地域住民の生きがいややりがいづくり，もっと大きなことをいうと町づくり，人づくりにつながるというところを意識して，この事業に取り組んでいきたいと思います。
それから，この管内２市７町すべての社会教育主事が顔を合わせて，この話題についていろいろと意見交換をする場があるということが大きな財産なのかなと思います。自分ももともと学校の教員ですから，大河原管内，いずれどの市町に異動するか分かりませんが，その時にこそ，ここでの経験，そして，どこに勤務しても知っている社会教育主事がいて，協働教育プラットフォーム事業に取り組んでいるということが，自分にとってもプラスになると思います。そういった意味では我々の果たす役割やネットワークがとても価値のあることだと感じます。お互いの連携を深めながら有意義な事業になっていけばいいなと思っています。

冨田：これまで学校支援本部事業が母体となり，「みんなで育てよう，おらほの子ども，かわさきっ子」をキャッチフレーズに活動を取り組んできました。それに目指して学校，地域，行政が協働して子供を育てていきましょうという環境づくりは大分整ってきて，事業も定着してきたと思っています。今後の目標はボランティア連絡会を開き，ボランティア相互のコミュニティの場の創出と，地域活動の活性化を目指して行きたいと考えています。また家庭教育支援については，先進地視察でもありましたように名取市のような子育てサロンをうまく取り入れて，親同士の交流親睦と情報の共有化が図られるような環境づくりが，今後の目標になるのではと考えています。

加藤：現在，２市７町において，それぞれの市町にあった事業を展開していると思います。個人的には，この事業がより推進されることにより，管内の他市町に転勤した教員からの「学校支援ボランティアの派遣をお願いします」という依頼や，管内の他市町に転居したボランティアやサポーターの方々からの「この市町でも，読み聞かせボランティアや子育てサポーターをしたいのですが。」の問いかけに，各市町の生涯学習課が「もちろんです。ありがとうございます。」と胸を張って返答できるような管内になればいいなと思っています。市町担当者の方々の負担は増えるかと思いますが，９市町，広域，事務所で協力しながら，そして「チーム大河原」的な感じで協力し合い，今後も協働教育の推進を図っていければと思います。

黒澤：私ども視聴覚教材センターでは，間接的に皆さまが進めている事業の手伝いになるよう，様々な教材・機材を用意しております。また各種講座を企画しています。分かりやすい内容と講座の回数を増やしてほしいという要望に応えていきたいと考えているところです。
また人材育成という面からいえば，職場体験等もえずこホールや消防署でも受け入れておりますので社会見学だけじゃなく，実際にはこんな仕事もしているということが分かってもらえると思います。
また２０年前からジュニア・アクターズを行っております。仙南地域の小学生の劇団を作って，文化活動を広げていく目的で，えずこホールを拠点に活動しています。４年生から６年生と限られた人数ですが，中には役者になった方もいるので，将来そういった方が地元に戻って活躍する形が一番理想なのかなっていう感じはしています。
家庭教育としては，えずこホールで行っている子育てサロン「えずっこひろば」があります。子供をもったお母さんたちが，午前中子供たち遊ばせながらいろいろ話をしたり，講師を呼んで事業をやっています。それぞれ市町の事業の際に，こういうのもあると一言添えていただけると，うちとしては本当にありがたいことです。

冨田：それではこの辺で座談会を閉じさせて頂きたいと思います。みなさんお疲れさまでした。

まとめ

ま　と　め

今年度の大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会では「協働教育推進へのアプローチ」をテーマに，現在進められている協働教育について研修を進めることにした。

まず始めに社会教育の変遷として，これまで進められてきた学社連携，学社融合，そして協働教育に移り変わった時代背景や協働教育プラットフォーム事業がもたらす効果等について話し合った。これまでの研修報告書にあるとおり、学校教育と社会教育に関するテーマは，学社連携が平成７～９年度，学社融合については平成１３～１５年度に取り上げられており，我々社会教育主事にとって永年のテーマであると言える。

研修では，これまでの研修報告書や文献を参考に，学社連携・学社融合，そして協働教育とは何かを模索し，我々研修委員会の理解にあった内容でまとめることにした。サブテーマに「各市町の実践から見えたもの」を掲げ，市町ごとに協働教育の現状や特色ある事業などを家庭教育支援・地域活動支援・学校教育支援に分類し，課題・成果をまとめた。

また先進地研修視察においては，昨年度に富谷町における学校支援地域本部事業を研修していることを受け，本年度は協働教育プラットフォーム事業の一つの柱である「家庭教育支援」について，様々な取り組みを行っている名取市の家庭教育支援チーム「ぽっぽはうす」を視察先に選び研修を行った。既存するサークルから発展し，地域（団体）と行政そして企業と連携した子育て事業の展開を目の当たりにし，強い衝撃をうけた。またその研修の中で，名取市教育委員会生涯学習課社会教育指導員の中保氏より「人と人とのつながりが希望をうみ，子育てすることが未来へとつながっていく」という話を聞き，それを体当たりで進めている担当者の熱意に強く心を打たれ，改めて子供たちを温かく見守り育てていこうという思いを抱いた。

座談会では，研修委員同士が協働教育に対しての現状や抱えている悩みなど，自らが胸に秘めている思いを語りあう場として行った。協働教育プラットフォーム事業の前身である学校地域支援本部事業から話が始まり，家庭・学校・地域・行政が連携しながら効率よく事業を展開していくため，各々がつながりを持ちながら歩み続けることの大切さを強く認識した。

あの未曾有の大震災以来，人との関わり「絆」を大切にする気持ちは高まってきている。「何か人のためにやってみたい，こんな事もできるのでは…」と考えている地域の人材を発掘し，うまくコーディネートしていくことが我々社会教育主事の果たすべき役目であり，それが地域全体の生涯学習の糧になっていくものと考えている。

管内の協働教育はまだスタートを切ったばかりである。この研修報告書を基に更なる事業の活性化と，地域のつながりが強まっていくことが我々の切なる願いである。

お　わ　り　に

あれは忘れもしない平成２４年４月２７日（金），大河原地区社会教育主事研究協議会総会が行われた日です。今年度の研修委員長を決めるということで会場の片隅に研修委員が集められました。その場の流れで安易に「研修委員長」という大役を引き受けてしまいましたが，社会教育を担当して日が浅く，協働教育に関しても知識がなかったため，どのように研修を進めていったらいいのかと悩んでいたことを思い出します。

今年度は「協働教育」をテーマに掲げ，学社連携や学社融合との違い，現在の協働教育のあり方について研究を重ねていくうちに，誰にでも分かる用語集と参考事例集になるような研修報告書を目指そうということになり，メンバー一丸となって研修を進めてきました。

今年一年間，研修を通して自分なりに大切だと感じた事がいくつかあります。その中の一つは「人の話を聞く」ことです。昔，小学校の校長先生が朝礼で『人の話は目で聞く』と話していたことを思い出しました。当時は『目で話なんて聞けない』なんて思っていましたが，年を重ねた今，しっかりと相手に目線を合わせ，聴く側も真剣に受け止めることで相手の考えや思いが伝わり，共感できるものだと考えるようになりました。

もう一つは「つながっていく」ことです。一人の力は無力です。仲間と同じ目標を目指し取り組んでいくことで一人一人の志が強くなっていき，私達に大きな力を与えてくれました。この報告書も研修委員の『絆』が完成に導いてくれたのだと思います。

最後になりましたが，研修の機会を与えて頂きました本協議会員の皆さま，報告書作成にあたりご協力いただきました多くの方々，そして多忙な業務を抱えながらも熱心に研修に取り組んできた研修委員の仲間に感謝を申し上げ，おわりの言葉といたします。本当にありがとうございました。

平成２５年３月

大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会
研修委員長　川崎町社会教育主事　冨田丈靖

【大河原地区社会教育主事研究協議会員】

白石市	☆※小室　徹彦	小野　輝彦		
角田市	※大内　克典			
蔵王町	日下　朝男	◇砂金　毅	※玉手　美絵	金塚　直美
七ヶ宿町	※髙橋　陸			
大河原町	八島　良隆	○小野　宏		
村田町	※鎌田　浩孝			
柴田町	鈴木　照二	太齋　正幸	石上　幸弘	加藤　栄一
	高橋　秀之	杉本　龍司	木村　正人	※後藤　忠宏
川崎町	我妻　聡美	◎冨田　丈靖		
丸森町	齋藤　公男	伊藤　博道	齋藤　洋寿	※荒井　優作
仙南広域	※黒澤　良	塚野あい子		
教育事務所	齊藤　直	※加藤　敏充	山下　正人	

☆研究協議会長
◇研究協議会副会長
◎研修委員長
○研修副委員長
※研修委員

【平成24年度　研修委員】

角田市　大内　克典

七ヶ宿町　髙橋　陸

丸森町　荒井　優作

柴田町　後藤　忠宏

村田町　鎌田　浩孝

蔵王町　玉手　美絵

仙南広域　黒澤　良

研修委員長　川崎町　冨田　丈靖

研究協議会長　白石市　小室　徹彦

研修副委員長　大河原町　小野　宏

教育事務所　加藤　敏充

研修報告書　第39号

協働教育推進へのアプローチ

～　各市町の実践から見えたもの　～

平成２５年３月２０日発行

編集　大河原地区社会教育主事研究協議会研修委員会

発行　大河原地区社会教育主事研究協議会

印刷　株式会社　津田印刷

研修委員会のあゆみ 【これまでの研修報告書一覧】

No	年度	タ　イ　ト　ル	研修代表者		
1	S48	宮城県における父母教師会活動に関する実態　－調査報告書－	県教育部長会編，社会教育主事担当		
2	S49	仙南地域における母親の幼児教育に関する実態 ～3･4歳児を第一子に持つ母親～　調査報告書	研修班長	白石市 白石市	太齋　　享 伏見　光龍
3	S50	乳幼児教育の学習内容の研究　～学習計画立案のために～	研修班長	白石市	伏見　光龍
4	S51	文化財保護行政をすすめるために	研修班長	丸森町	阿部　義郎
5	S52	生涯教育を推進するために	研修班長	川崎町	髙山　惠弘
6	S53 S54	大河原教育事務所管内社会教育30年のあゆみ　～住民のこころに灯をともして～	研修班長	角田市 七ヶ宿町	咲間　庄三 根元　邦美
7	S55	学習プログラムの立案（婦人学級・高齢者教室・家庭教育学級）	研修班長	七ヶ宿町	根元　邦美
8	S56	青少年及び親の意識　調査報告書	研修班長	柴田町	澁谷　孝之
9	S57	社会教育推進上の諸問題と社会教育主事の果たす役割 ～教育委員会と公民館のあり方を中心として～	研修班長	角田市	齋藤　　久
10	S58	社会教育における学習内容を充実させるための工夫 ～視聴覚教材の効果的な活用をとおして～	研修班長	川崎町	大宮　　昭
11	S59	少年教育の充実をめざして　　～管内における現状と課題～	研修班長	白石市	佐藤　重仁
12	S60	青年教育の充実をめざして・Ⅰ　＝青年活動の実態＝	研修班長	丸森町	鈴木　悦郎
13	S61	青年教育の充実をめざして・Ⅱ　「青年の生活意識と余暇活動についての調査」報告書	研修班長	村田町	髙橋　徳夫
14	S62	青年教育の充実をめざして・Ⅲ　－青年教育事業の進め方を考える－	研修班長	角田市	大友　喜助
15	S63	スポーツ人口の拡大を図る一方策　高齢者向けニュースポーツの開発を通して	研修班長	大河原町	佐々木寿信
16	H元	スポーツ人口の拡大を図る一方策Ⅱ　高齢者向けニュースポーツの普及を通して	研修班長	角田市	太田　文夫
17	H2	大河原教育事務所管内社会教育40年のあゆみ　新しい学習社会への架け橋	研修委員長	丸森町	岡崎　勝志
18	H3	生涯学習の鼓動　　青年・家庭・高齢者教育の充実をめざして	研修委員長	村田町	髙橋　定光
19	H4	生涯学習の鼓動part2　成人・少年・婦人教育の充実をめざして	研修委員長	大河原町	尾形　　彰
20	H5	学校週5日制と社会教育のあり方	研修委員長	川崎町	小林　志郎
21	H6	青年教育の充実をめざして・Ⅳ　－昭和61年度調査結果との比較・考察を通して－	研修委員長	蔵王町	日下　朝男
22	H7	生涯学習のまちづくりをめざして　生涯学習推進の現状と課題	研修委員長	村田町	山家　孝弘
23	H8	生涯学習の課題と展望　学社連携をめざして	研修委員長	白石市	小野　輝彦
24	H9	生涯学習の課題と展望　学社連携から学社融合へ	研修委員長	村田町	山家　孝弘
25	H10	生涯学習の課題と展望　よりよい公民館活動をめざして	研修委員長	蔵王町	砂金　　毅
26	H11	生涯学習の課題と展望　よりよい公民館活動をめざしてⅡ ～公民館入門－つどう・まなぶ・つながる～	研修委員長	大河原町	八島　良隆
27	H12	大河原教育事務所管内社会教育50年のあゆみ　新世紀・きえない虹をおいかけて	研修委員長	白石市	村上　忠敏
28	H13	学社融合の課題と展望　総合的な学習の時間における社会教育のアプローチ	研修委員長	七ヶ宿町	伊藤　貴子
29	H14	学社融合の課題と展望　学校教育と社会教育の協働をめざして	研修委員長	丸森町	菊地　浩二
30	H15	学社融合へのアプローチ　知って得する！文化財・その活用法	研修委員長	丸森町	伊藤　博道
31	H16	ヤング・エボリューション　～青年の意識調査をとおして、今の青年たちを考える～	研修委員長	大河原町	小野　　宏
32	H17	ヤング・エボリューションⅡ　～青年教育の活性化をめざして～	研修委員長	村田町	鎌田　浩孝
33	H18	動き出した次世代育成支援　～これからの子育て支援の在り方を考える～	研修委員長	七ヶ宿町	髙橋慎太郎
34	H19	時代を映してきた視聴覚教育　～使ってみよう自作視聴覚教材～	研修委員長	角田市	八島　利美
35	H20	がんばってます！ジュニア・リーダー　～過去　現在　そして未来へ～	研修委員長	川崎町	村上　　透
36	H21	生涯スポーツの振興をめざして　　～総合型地域スポーツクラブの可能性をさぐる～	研修委員長	柴田町	大川原真一
37	H22	生涯スポーツの振興をめざして vol.Ⅱ ～仙南型総合スポーツクラブへのアプローチ～	研修委員長	白石市	小室　徹彦
38	H23	大河原教育事務所管内社会教育60年のあゆみ　～変わり続ける時代を生きる～	研修委員長	角田市	大内　克典
39	H24	協働教育推進へのアプローチ　～各市町の実践から見えたもの～	研修委員長	川崎町	冨田　丈靖